

524  
227

東京高等商船學校  
練習船大成丸

第三十二次遠洋航海報告

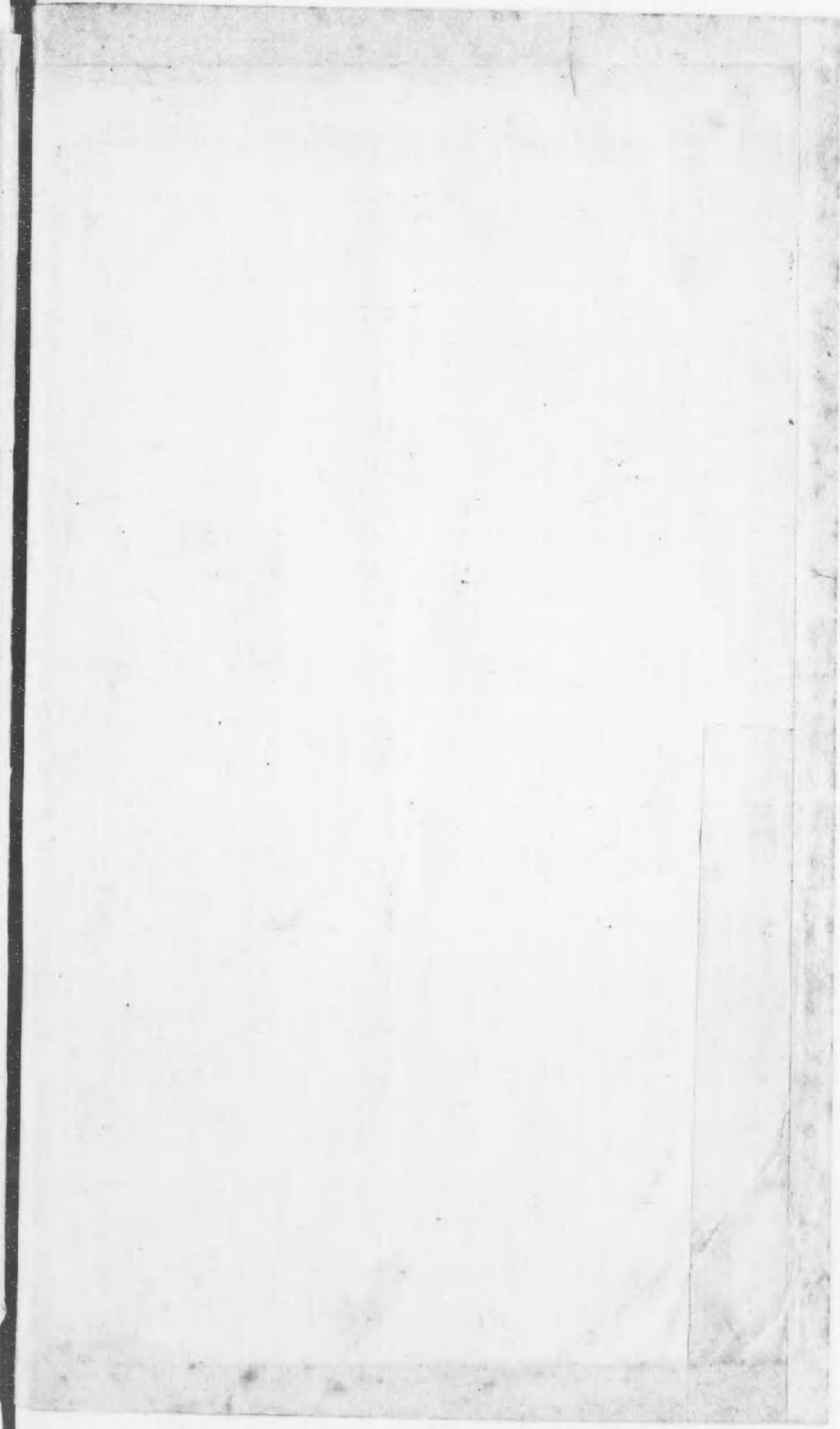
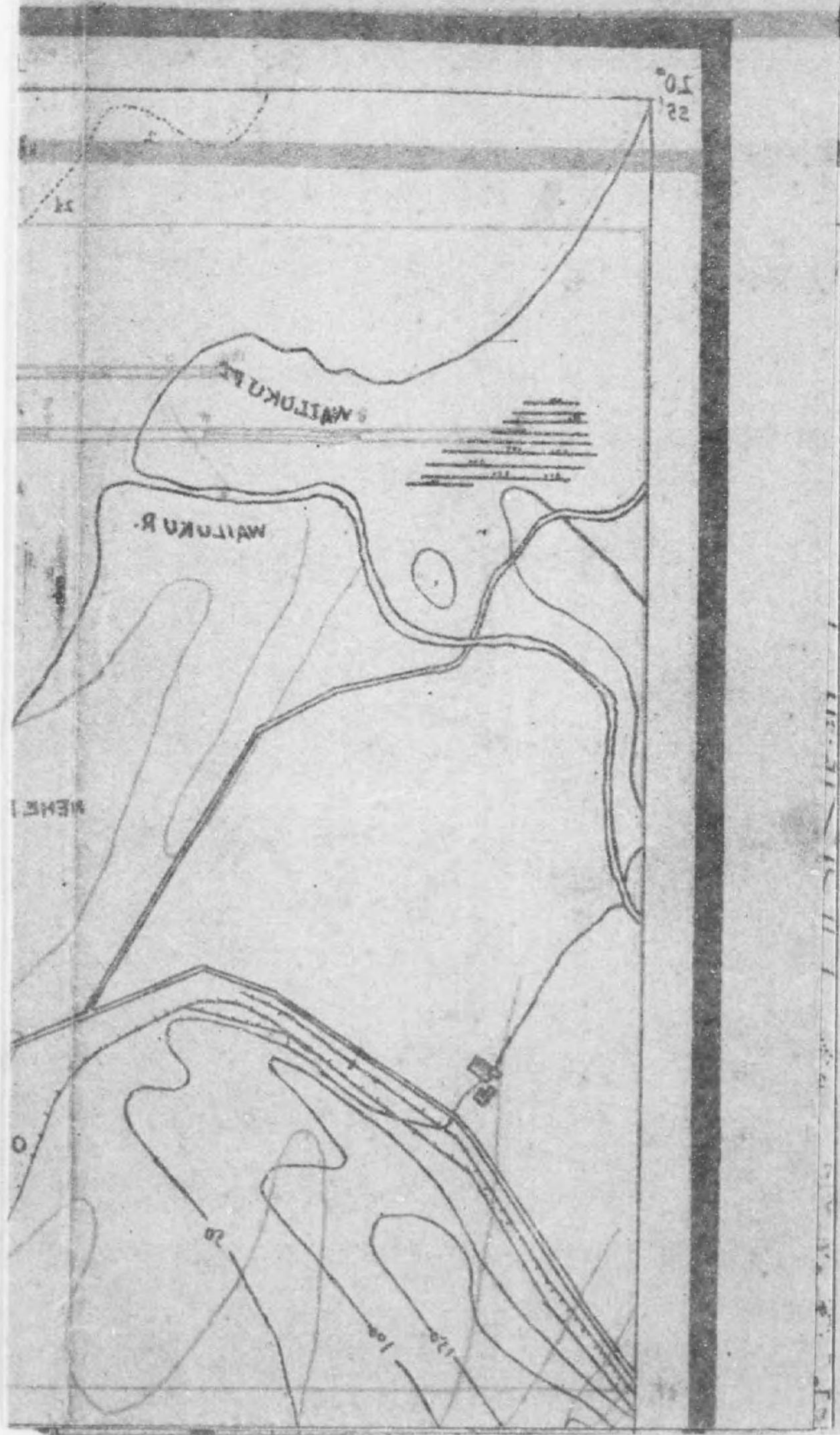
東京高等商船學校



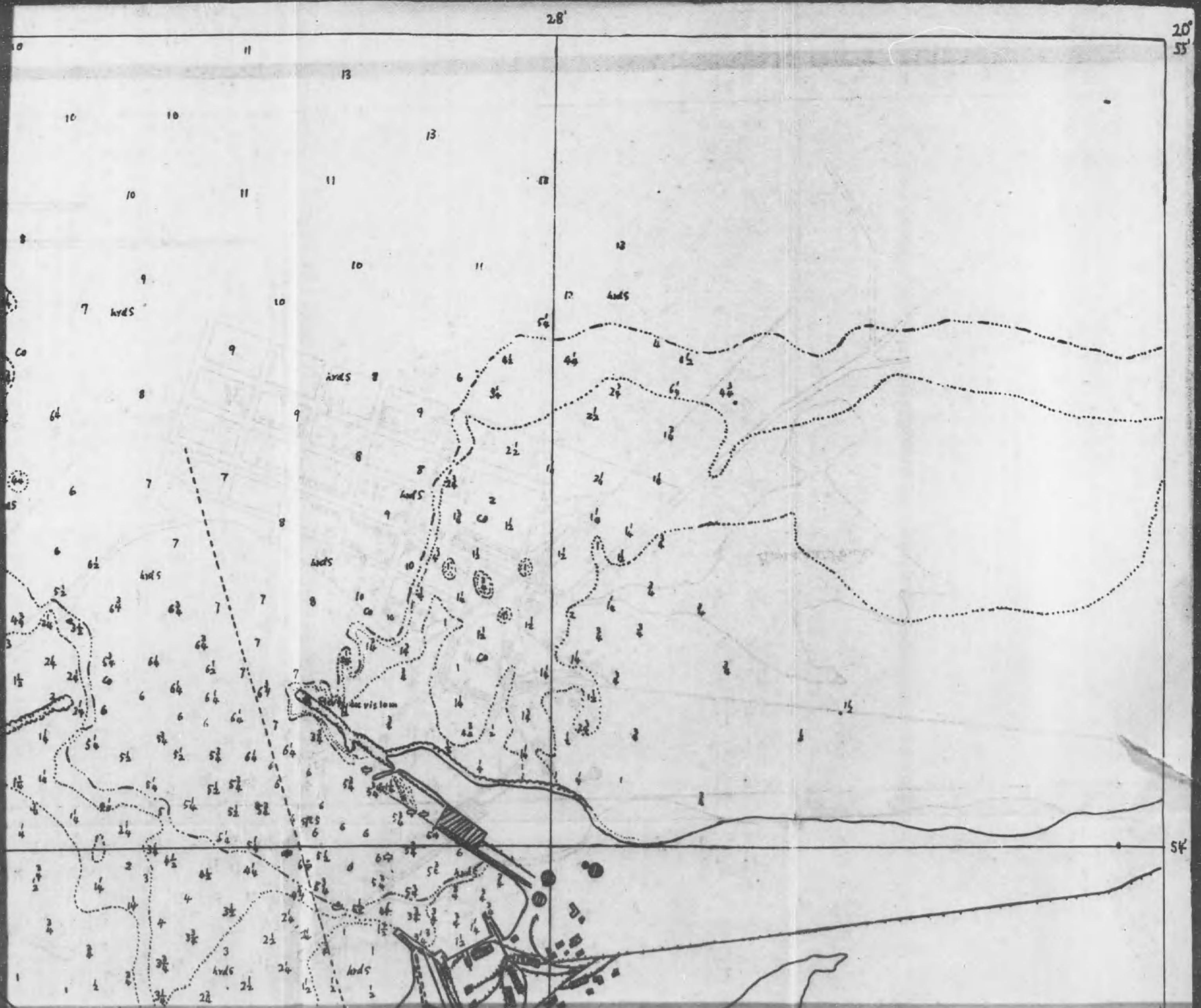
始



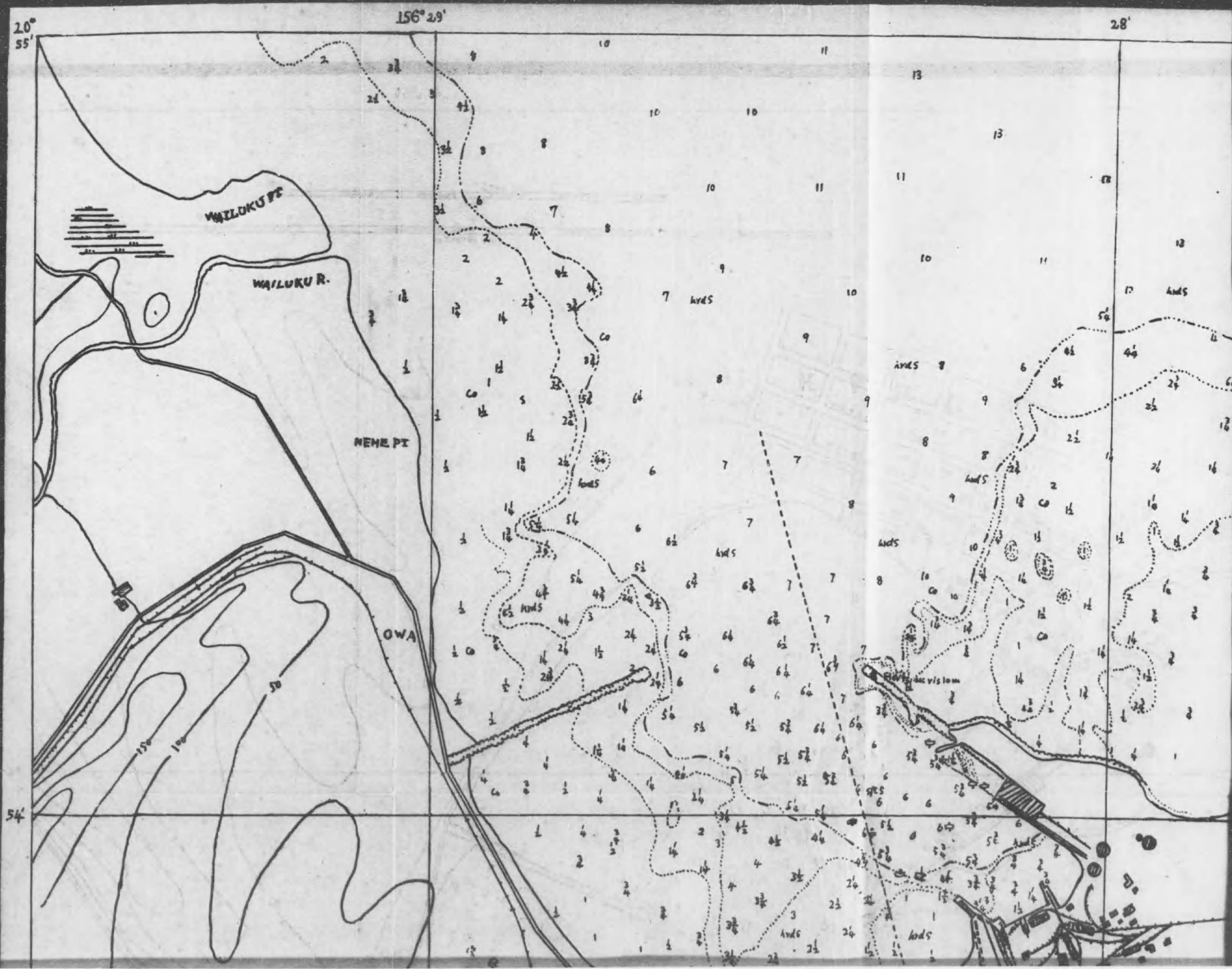
# KAHULUI H

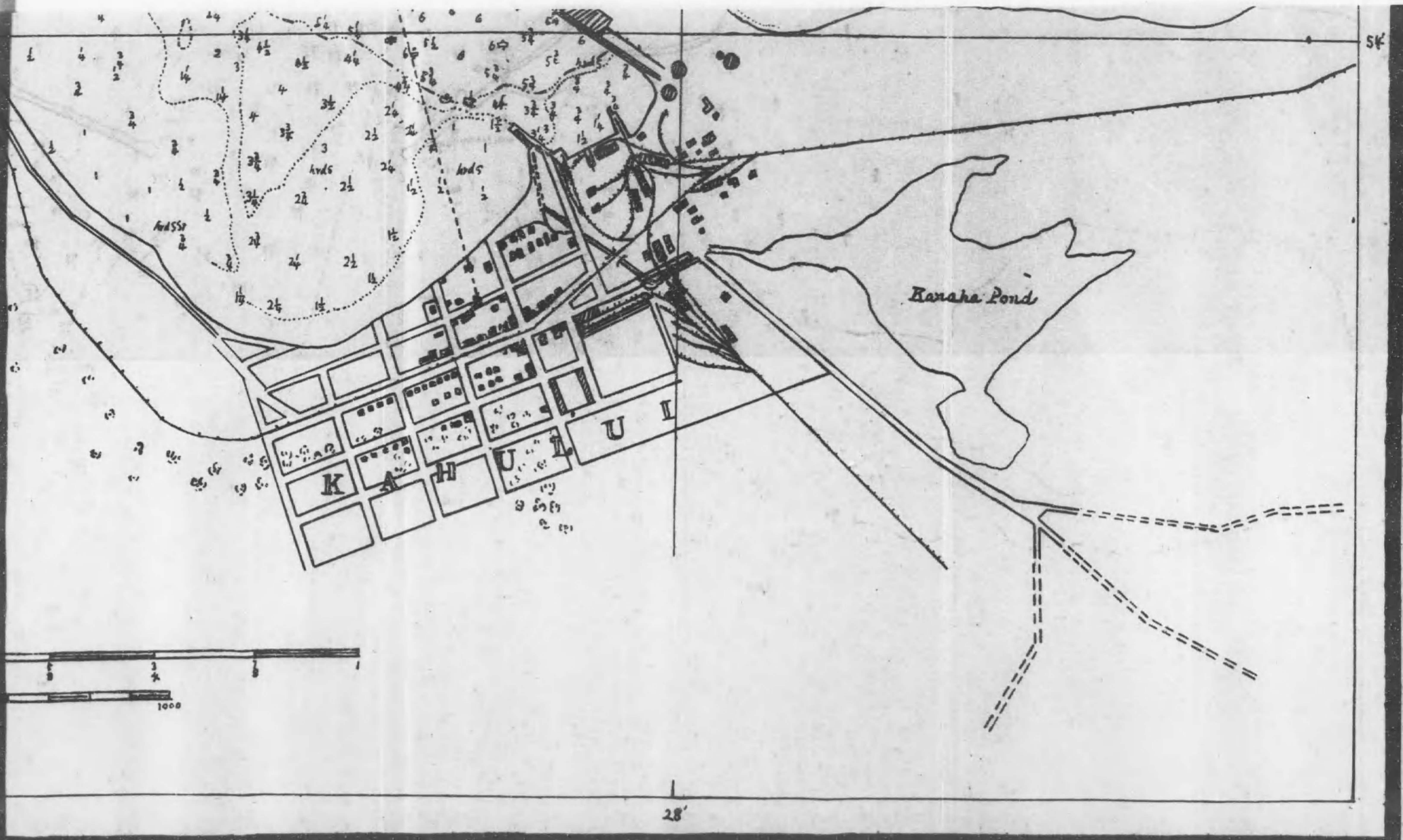


# AHULUI HARBOR

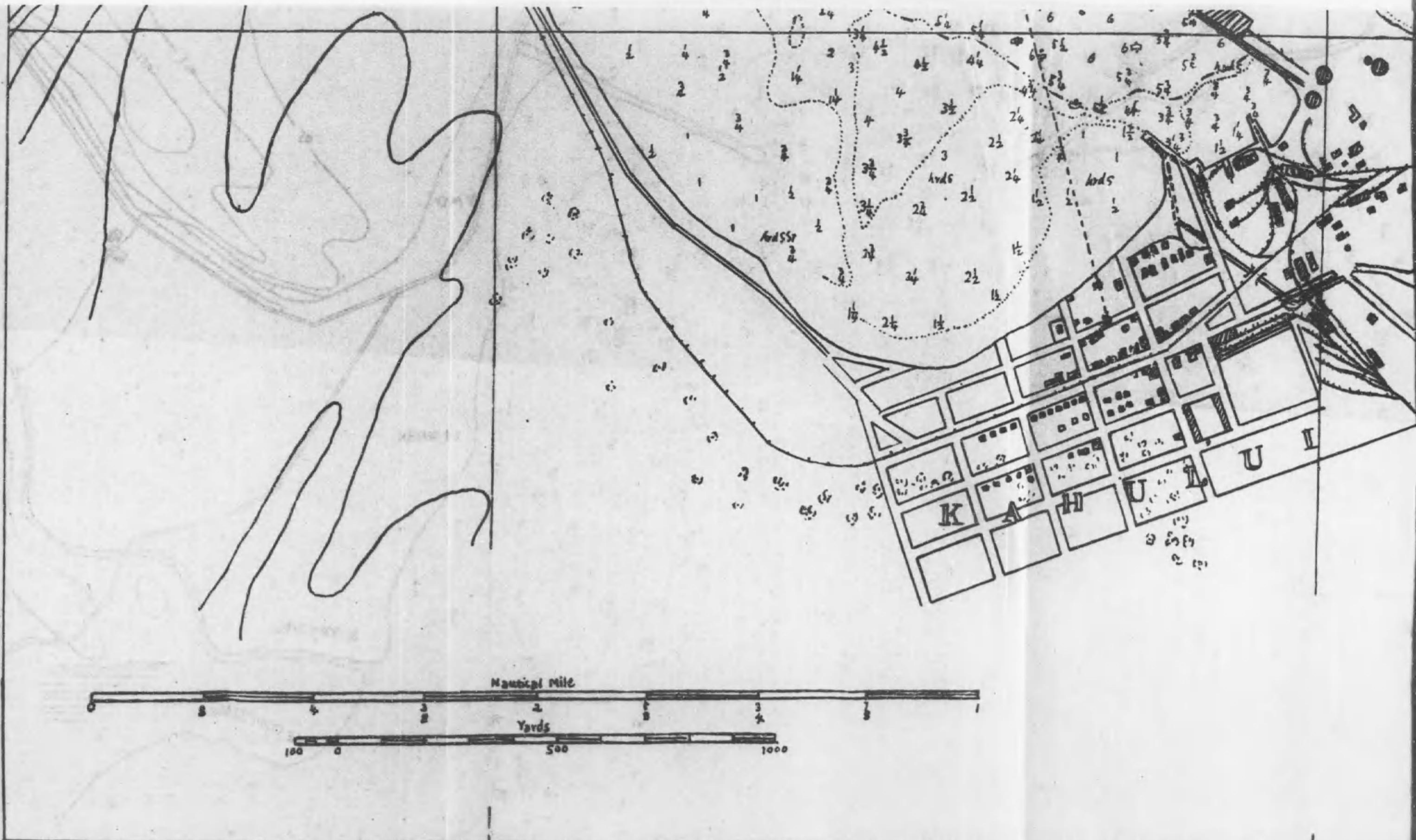


# KAHULUI HARBOR





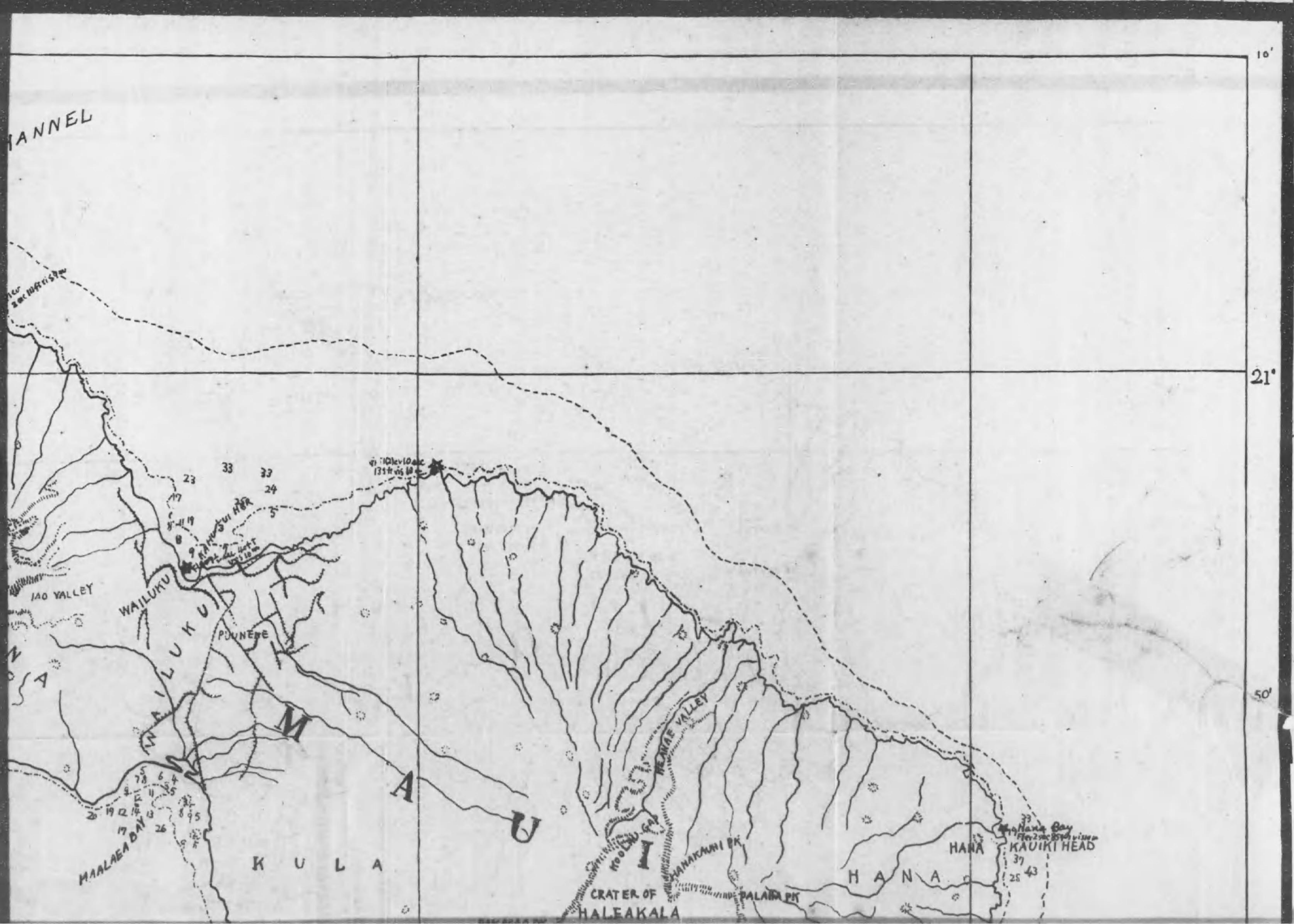
54'



156° 23'

28'

# MAUI



ARBO

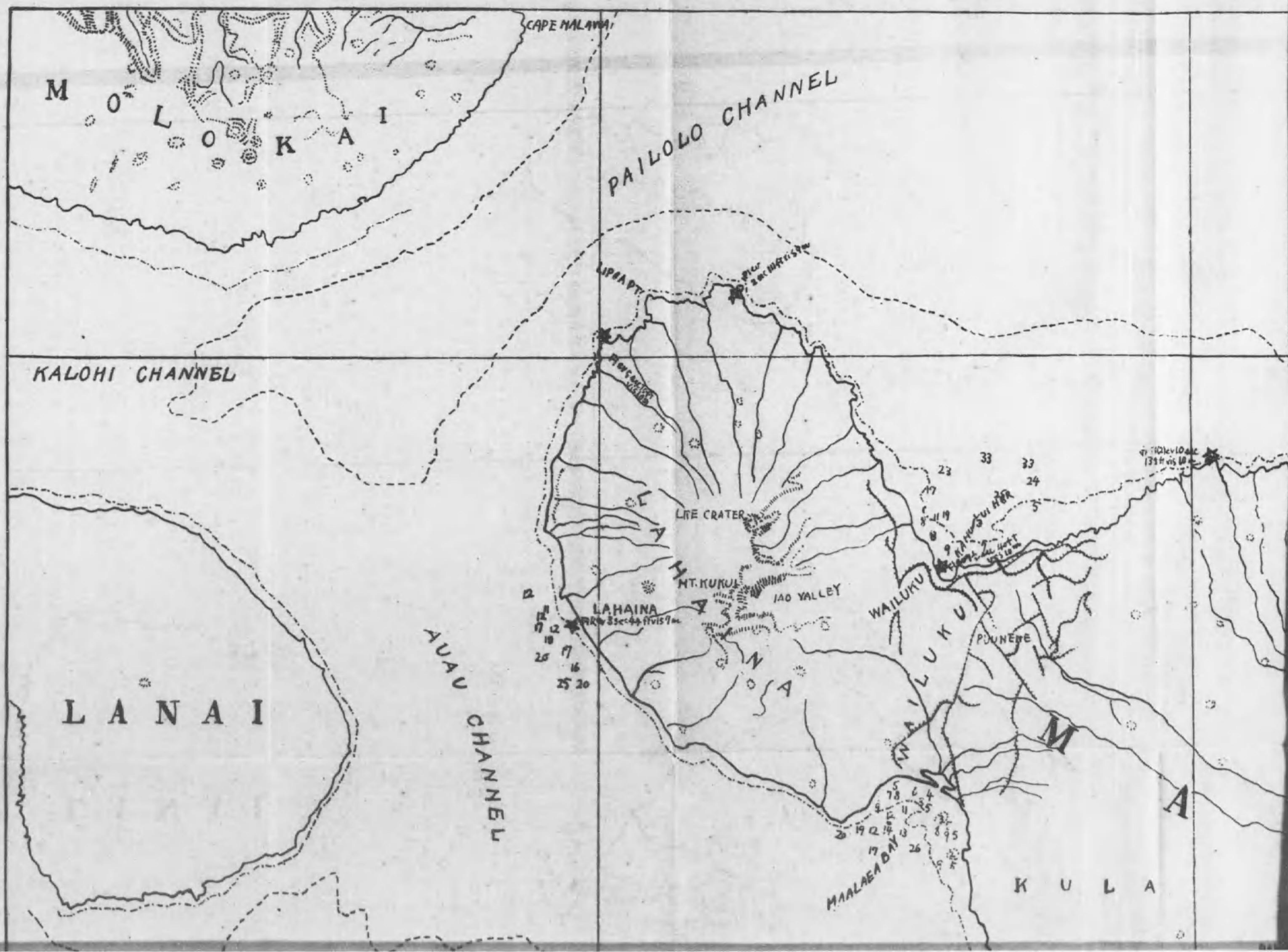
05  
77

10'

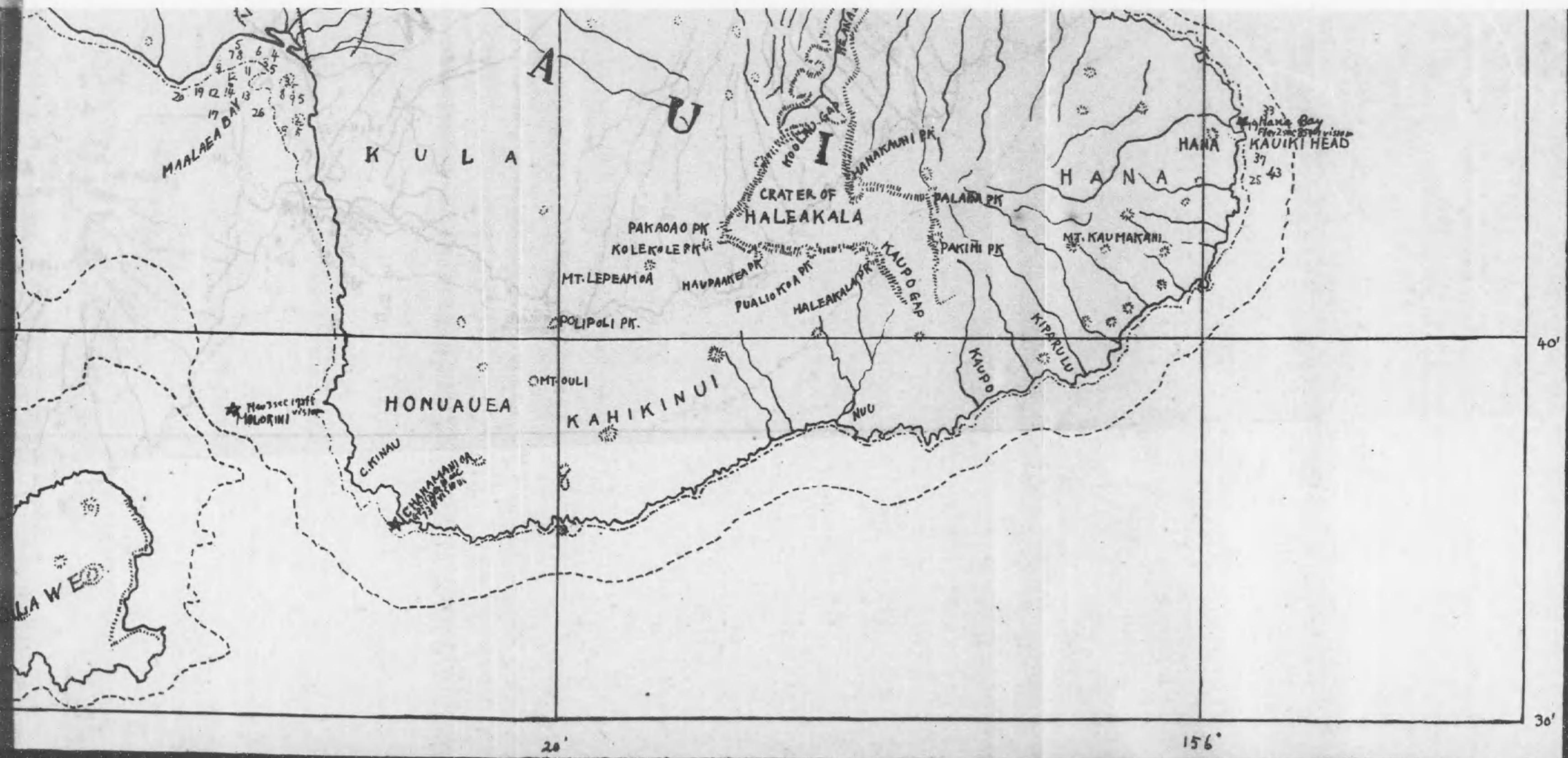
21'

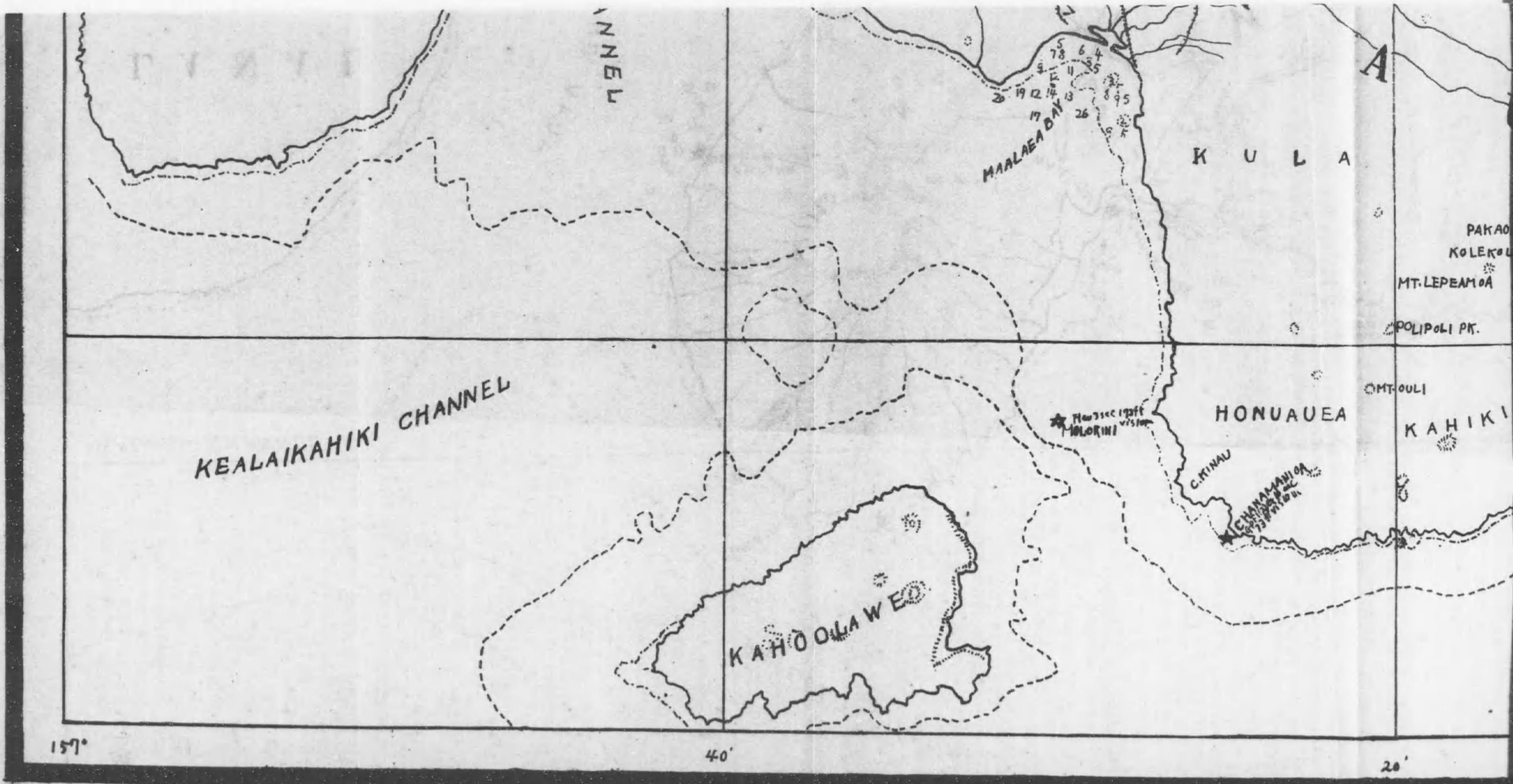
50'

# MAUI









824-227

東京高等商船學校  
練習船大成丸

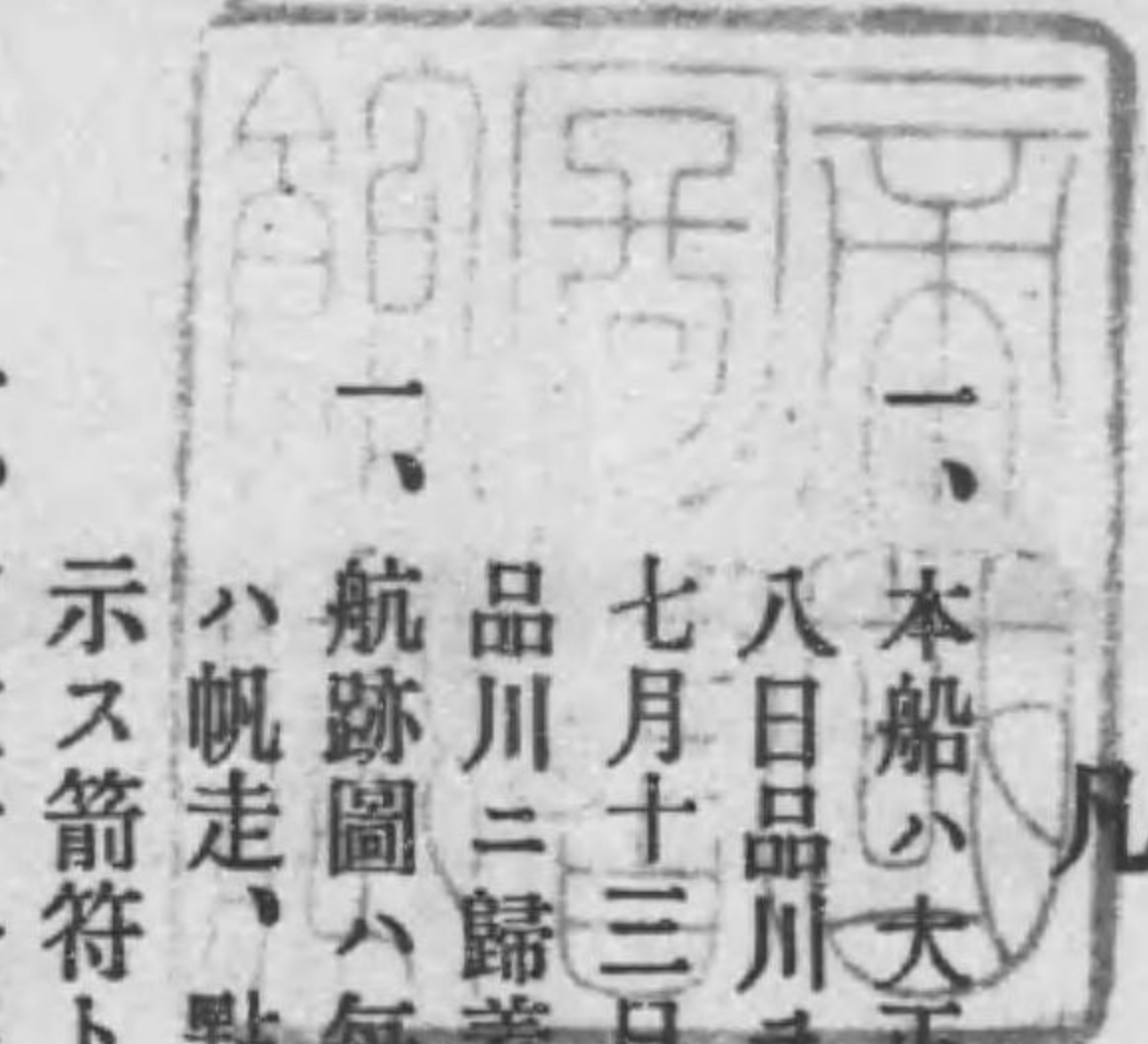
# 第三十二次遠洋航海報告

往寄贈

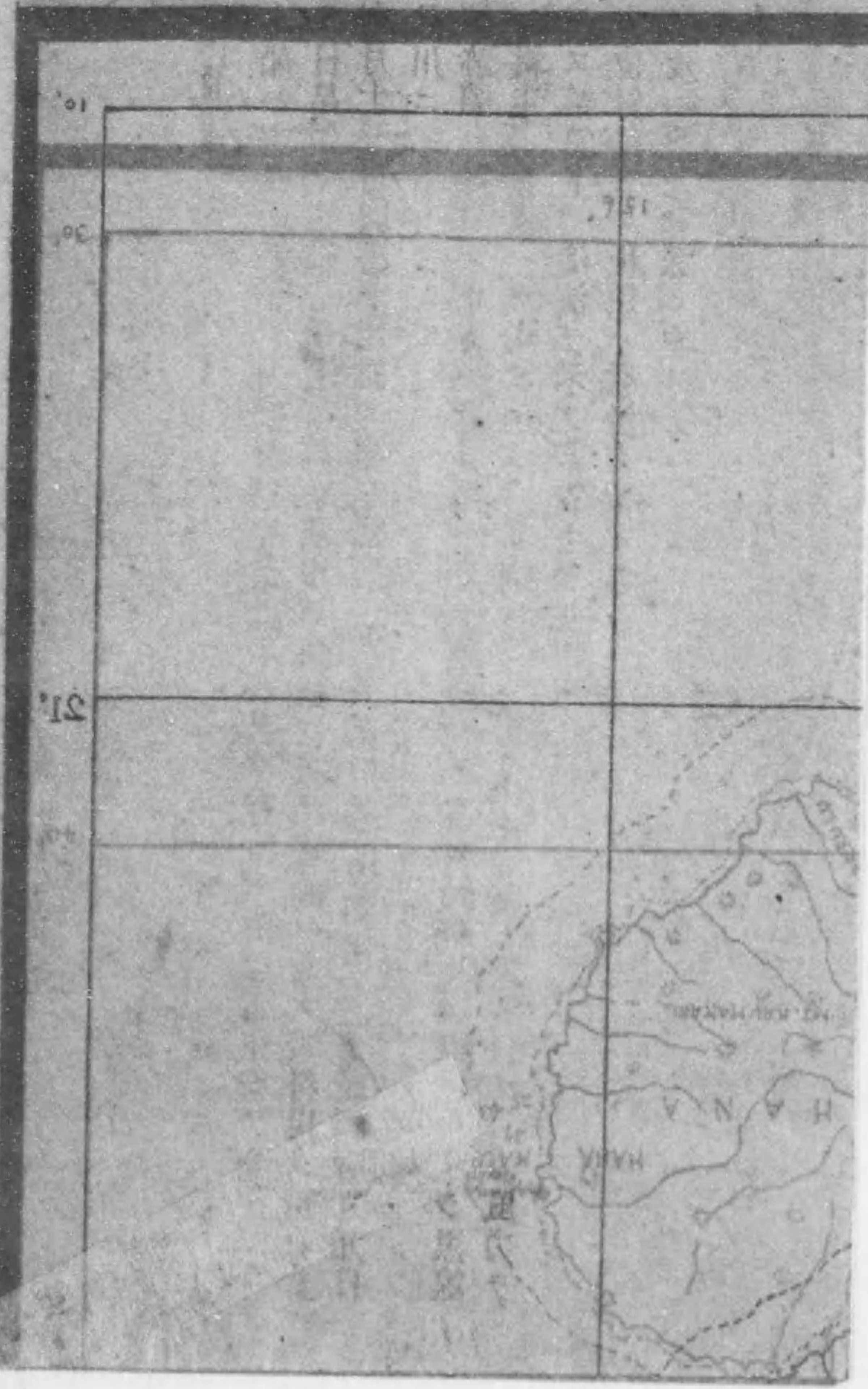
專任教官 小野奈良治

## 凡例

- 一、本船ハ大正十四年六月航海科生徒九十四名ヲ容レ航海練習トシテ全月二十八日品川ヲ拔錨、横濱ニ於テ淡水ヲ搭載シ次テ室蘭ニ於テ燃料炭ヲ積取リ七月十三日同港ヲ出帆シ布哇島「ヒロ」及馬哇島「カフルイ」ヲ經テ十月九日品川ニ歸着セリ
- 一、航跡圖ハ毎日ノ正午位置ヲ點ジ之ヲ連結シテ直航針路及同距離ヲ示ス
- 一、帆走、點線ハ汽走ヲ示シ、其側ニ「ビユーフォート」氏階級ニヨル風力ヲ示ス
- 一、方位針路等ノ種類ハ磁針方位トス
- 一、溫度ハ悉ク華氏ニヨル



12. 24  
 寄贈



東京高等商船學校 第三十二次遠洋航海報告

小澤 泰典 編

第三十二次遠洋航海報告  
 全編 航海報告  
 一、乗員名簿  
 二、横濱出帆現狀  
 三、自品川至室蘭  
 四、室蘭港碇泊日誌  
 五、室蘭出帆現狀  
 六、自室蘭至ヒロ  
 七、ヒロ港碇泊日誌  
 八、ヒロ出帆現狀  
 九、自ヒロ至カフルイ  
 十、カフルイ港碇泊日誌  
 十一、馬哇島事情  
 十二、自カフルイ至品川  
 十三、全航海統計  
 十四、第三十二次遠洋航海醫事報告  
 十五、同患者表

東京高等商船學校 第三十二次遠洋航海報告

目次

一、乗員名簿……………一

二、横濱出帆現狀……………四

三、自品川至室蘭……………六

四、室蘭港碇泊日誌……………九

五、室蘭出帆現狀……………一

六、自室蘭至ヒロ……………一三

七、ヒロ港碇泊日誌……………一五

八、ヒロ出帆現狀……………一三

九、自ヒロ至カフルイ……………一四

十、カフルイ港碇泊日誌……………一五

十一、馬哇島事情……………一六

十二、自カフルイ至品川……………一五

十三、全航海統計……………一六

十四、第三十二次遠洋航海醫事報告……………一六

十五、同患者表……………一六

乘員名簿

一等運轉士 教員 淺利孝爾

二等運轉士 教員 小野奈良治

三等運轉士 教員 淺井榮資

機關長 教員 神谷勝次郎

船醫 囑托員 飯塚正明

無線取扱主任 囑托員 後藤勇美

一等機關士 囑托員 泉莊介

事務長 囑托員 藤達吉

無線取扱員 同 畑加

乘員名簿

職員 (十三名)

船長 教員 淺利孝爾

專任教官 囑托員 小野奈良治

三等運轉士 同 淺井榮資

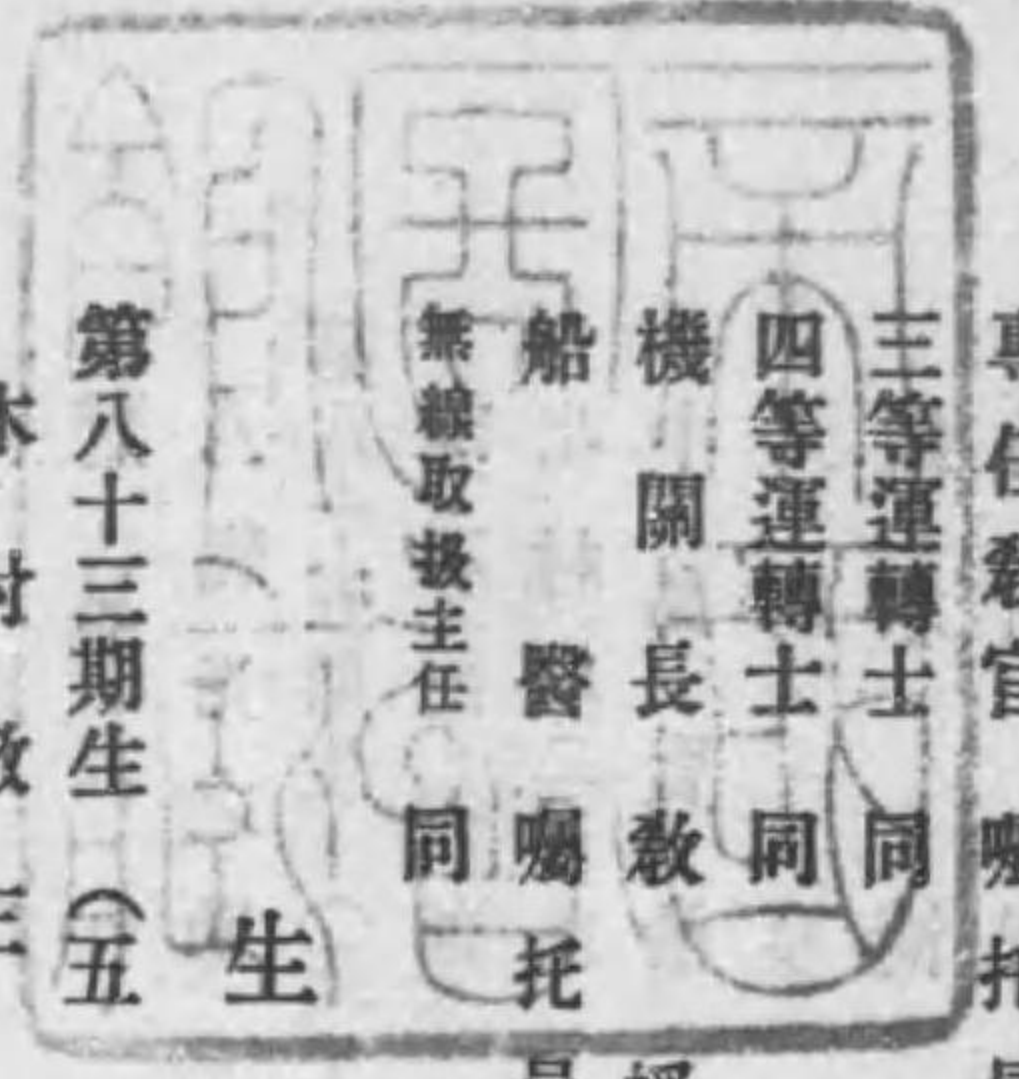
四等運轉士 同 神谷勝次郎

機關長 教員 飯塚正明

船醫 囑托員 後藤勇美

無線取扱主任 囑托員 泉莊介

無線取扱員 同 畑加



第八十三期生 (五名)

木村敬三 木村憲二 木村清四郎 増田利章 大槻正雄

第八十四期生 (五十七名)

阿部春雄 阿部晋 阿曾沼精三 天野勝郎 青柳辰雄

土橋勇吉 藤城英吉 本田市太郎 榛澤精男 早川政明

五十嵐武敏 石井葵一 岩川實 小林利七 小森恒治

鎌田質 香田佐和吉 上方仁哉 小松孝一 小森勇英

給料料賄火火油火水水水水水	料理人長夫夫差長夫夫夫夫夫	渡金子德植伊柏野辻安竹鈴橫友	邊子元松東原口井樂平木山野	惣寅靜常次郎吉時作郎教七藏雄助	給料料火火火油水水水水水	仕理人夫夫夫差夫夫夫夫夫	山野砂根中山源長佐辻加鈴橋友清	目鹿梅山田川谷藤恒藤木場武廣	與次郎吉六一太郎治郎信太松一吉	洗給料料火火火油水水水水水	濯理人夫夫夫差夫夫夫夫夫	中岩樋泉佐三栗齋原阿石山日	澤本口川川浦原藤藤部村下南	德正之龜川浦原政政治治慶長萬	次武助郎傳勇藏郎弘作藏勇次郎
---------------	---------------	----------------	---------------	-----------------	--------------	--------------	-----------------	----------------	-----------------	---------------	--------------	---------------	---------------	----------------	----------------

水舵水	夫取長	藤池森	城田竹	定庄次	吉郎郎	水水	舵夫	取長	大	堤	駒鈴堤	木朝庄	盛之三	枝助郎	
竹鈴大中北赤	村木崎島村石	操清亨治郎	浦鈴大中小安	山木津村林東	由政四羽忠英	山鈴大西香朝	縣木塚川山倉	春清四吾郎郎雄之	雄郎郎郎郎雄之	栗	藤	永	井	澤	
第八十五期生	(三十名)	若渡高菅大宮真北	松邊遠田島下寅川	章一玄章治一雄直衛	渡天佐大長水片	邊海々木成達澄藤	四洋三進文吉雄隆	郎三進文文吉雄隆	矢上佐龍中森川	野田々寶澤本岡	武重善克鑑正春實	人夫政己三春實	安浦樋佐大村川	田岡田井上田島	健一夫郎幹雄計夫
普通海員	(四十八名)	安東英雄	西川辰雄	森田千勝	粟倉長八	藤澤吉一	永井義士	小田義平	佐々木宗平	山谷勇吉	山崎正義	山崎正義	山崎正義	山崎正義	



自品川 至室蘭

六月二十八日(日) 横濱回航

大空晴レテ北東ノ微風小波ヲ立ツルノミ午前八時三十分右舷錨ヲ揚ケテ第三十二次遠洋航海ノ壯途ニ上ル

西方遙カニ富嶽ノ清容ヲ仰キ膽ヲ總員百五十五名意氣頗ル昂然タリ

九時過總帆ノ展装シ「上手廻シ」及「溺者救助操練」ヲ行ヒツ、進航午後零時三十分各帆ヲ收メテ横濱ニ向ヒ一時五十分港外假泊次テ港内ニ入り二時五十分第五號岸壁ニ繫留ス

六月二十九日(月) 横濱港外

午前九時二十分岡田文部大臣一行六十餘名來船同四十五分解纜港外ニ出ツ

此間大臣ハ校長ノ先導ニテ詳ニ船内ヲ巡覽シ終リテ總員ヲ後甲板上ニ召集セシメシ上史實ヲ舉ケテ海事立國ノ必要ヲ説キ尙本邦海員必須ノ心得トシテ「豪膽ト細心」及「沈着ト機敏」ノ二項ヲ指摘シテ懇切ナル訓話ヲ與ヘラル

港外ハ南々東三ノ風アリ即チ十一時過總帆ヲ展装シ次テ「上手廻操練」兩三回及「溺者救助操練」一回ヲ行ヒ二時終了直チニ各帆ヲ收メテ汽走ニ移リ三時三十五分第十二號岸壁ニ繫止同五十分文相一行退船サル

本日來賓左ノ如シ

岡田文相、鈴置政務次官、松浦事務次官、山道參與官、武部實業學務局長、栗屋専門學務局長、柴田建築課長、秘書課長、窪田會計課長、澤田大臣秘書官、木村書記官、杉江督學官、佐野監修官、大岡監修官、矢野事務官、永井屬、横田屬、中山屬、石井屬、久保屬

逓信省 永野技師

參謀本部 佐々木中佐

海軍省 菊井大佐、丹下少佐

神奈川縣 安河内知事、有吉横濱市長、神鞭稅關長、飯田監視部長、矢澤港務部長、鈴木横濱高等工業學校長、田尻横濱高等商業學校長

本校 古谷校長、島谷教頭、玄智教授、須川教授、若口教授、須藤教授、青木教授、關谷教授

六月三十日(火) 横濱港碇泊

學生半艇宛半日上陸天候快晴參觀及見送リノ訪客頗ル多シ飲料水五百六十一噸ノ積載ヲ了ス

七月一日(水) 横濱出帆

朝來曇天正北一ノ風アリ十時過途ニ微雨トナリシカ見送リノ訪客引キモ切ラス正午港務部汽艇ニ曳カレ岸壁上見送人ノ萬歲聲裡ニ解纜出港ス時ニ豪雨沛然トシテ至リ濕潤肌ニ徹スルモ各員怯マズ勇敢ニ作業ニ從フ附近碇泊各汽船ヨリ「祈安航」ノ信號ニ送ラレツ、港外ニ出テ郵船、商船、東洋汽船各見送ノ汽艇ニ長三聲ノ別レヲ告ケテ進航セシカ北東二ノ風アリ雨滋ク氣壓降下シ天候惡化ノ兆アリシヲ以テ港口「フエヤーウエーグイ」ヲ南四十五度西距離二分ノ一湮ニ見テ假泊シ天候ノ恢復ヲ待ツ

錨地方位

十	二	天	鼻	南三十三度西
フエヤーウエーグイ				南四十五度西
港	口	白	塔	北六十九度西
水			深	八尋
左	舷		錨	六十尋



七月二日(木) 館山灣假泊

北東一ノ風晴雨計上昇天候恢復セルヲ以テ午前五時拔錨原基羅針儀自差矯正ノタメ館山灣ニ向フ、海堡、  
觀音崎燈臺ヲ航過シ八時五十分館山灣ニ入り假泊ス

錨地方位

大房	北二十九度西
洲ノ鼻	南八十一度西
高島	南四十三度西
水深	八尋四分ノ一
錨鎖	左四十五尋

生徒ハ午前中端艇四隻ヲ卸シテ帆走實習ヲナシ午後約三十分間水泳ヲ行フ

正午過空晴レシヲ以テ一時四十五分灣口ニ出テ船ヲ大旋回セシメツ、前後兩船橋ノ原基羅針儀自差ノ矯

正ヲ了シ續イテ就航、四時四十二分洲崎ノ燈臺ニ並航正東一哩四分ノ三次テ六時二分野島岬燈臺正橫北

北東距離三哩時ニ北々東二ノ風アリ海波高カラサルモ南方ノ長濤アリ

七月三日(金) 正午位置 北緯 三六度五一分  
東經 一四一度三〇分

偏北東二ノ風アリ午前二時五十四分犬吠岬燈火正橫北西四分ノ一距離十哩四分ノ一、北々東ニ變針ス、

正午北微東四分ノ三午後六時北微東二分ノ一東ニ變針シツ、航走同九時五分金華山燈火正橫西微北二ノ

一北距離十八哩半  
晝間晴曇相半セシカ夜ニ入り曇天トナル

七月四日(土) 正午位置 北緯 四〇度一一分  
東經 一四一度五九分

正午過海霧襲來セシヲ以テ直チニ機關用意ヲ令シ減速航行ス午前七時八分銚崎燈臺正橫西微南距離五哩

半爾後霧晴レシヲ以テ全速ニ復ス

午後十時三分尻矢岬燈火正橫西微南距離五哩四分ノ三次テ西微北二分ノ一北ニ變針ス

本日午前午後ニ亘リ總員石炭繰ヲ行フ

七月五日(日) 室蘭入港

午前一時三十五分惠山岬燈火正橫南西微西二分ノ一距離四哩四分ノ一、五時過室蘭港外ニ達シ船ヲ旋回

シテ再度自差矯正ヲ行ヒ七時過終了、全速前進シ大黒島北西方ヲ迂廻シテ室蘭港内ニ入り八時二十五分

双錨泊ス

錨地方位

港口桂燈立標	北三十五度西
測量山	南五十度西
石炭棧橋	南三十度半東
水深	五尋
錨鎖	兩錨三十尋

### 室蘭碇泊日誌

七月五日(日) 快晴

午前八時二十五分入港双錨泊ス

吹ク風ハヤ、寒冷ナレトモ天朗カニ晴レテ山野綠色濃ク初夏ノ氣充チ滿ツルヲ覺ヘシム

港口祝津鼻ノ防波堤完成近ケルアリ鐵路輪西ヨリ別レテ灣ノ沿岸ヲ走ルモノアリ港内桂燈浮標ノ設備成

レルアリ然レトモ港内碇泊ノ船影疎ニシテ陸岸ニ石炭ノ山積セルヲ見テハ轉々寂寞ノ感ニ堪エサルモノ

アリ

學校長宛「五日前入港」ノ旨架電ス

午後生徒、普通海員半艇半日上陸

七月六日(月)快晴

生徒、普通海員半艇一日上陸

室蘭中學校ノ招キニ應シ柔剣道及野球部撰手ハ同校ニ赴キ練習仕合ヲ爲シテ鼓舞激勵スル所アリ爾後毎日午後二時半ヨリ練習ヲ行フコト、ナス

拂曉ヨリ焚料炭積載開始薄暮ニ及ヒテ終了ス總量四百十二噸ナリ

七月七日(火)曇天

士官八名生徒總員九十名及信號手、看護手午前八時北海道炭坑汽艇ニテ本船ヲ離レ登別温泉ニ向フ、九時十五分室蘭驛發十時登別驛ニ下リ途上沿道ノ山色ヲ賞シツ、二里ノ坂道ヲ踏破シテ俱多樂湖畔ニ至ル湖ハ海拔千尺ノ地ニアリ回周三里凡テ山ヲ以テ圍繞セラレ波穩ニ水清ク山影湖面ニ寫リテ風景ノ賞スヘキモノアリ中尾氏十數年來此地ニト居シテ姫鮭ノ養殖ニ從事セリ湖畔ニ巖清水ヲ掬シテ晝食ヲ喫シ午後一時出發九十九折ナル岨道ヲ辿リテ二時過霧滋キ中ヲ登別温泉ニ着シ第一瀧本館ニ入ル夕暮ニ及ヒ空愈々曇リ遂ニ微雨ト變ス

七月八日(水)晴曇相半ハス

夜來ノ雨残りナク晴レテ鳥聲頗ル騒然タリ朝食ヲ終リテ地獄谷ヲ瞥見シ十時半出發二里ノ田舎道ヲ辿リテ登別驛ニテ乗車途中午後一時御崎驛ニ下リ日本製鋼所室蘭工場ノ見學シ午後三時半歸船ス

七月九日(木)晴

生徒、普通海員半艇一日上陸

室蘭中學生其他一般參觀者頗ル多シ

七月十日(金)晴

生徒、普通海員半艇一日上陸

室蘭中學生三十名加藤教諭引率ノ下ニ端艇三隻ニ分乘シテ來船詳細船内ヲ見學ノ上夕方退船ス

七月十一日(土)晴曇相半ス

朝端艇四隻ヲ卸シテ學生總員灣内ヲ縱横ニ帆走實習ヲ爲ス

午前洗濯及大掃除ヲ施行午後ハ生徒總員一等運轉士引率ノ下ニ地球岬燈臺見學ニ赴キ點燈爆音信號等ノ實況ヲ學ヒ傍附近ノ景色ヲ賞シテ四時歸船ス

七月十二日(日)雨

生徒、普通海員半艇半日上陸

午前雨頗ル滋カリシカ午後曇トナル中學生其他參觀人有リ

第八十五期生半井史郎及小柳二一兩名ハ蟲様突起炎ニ罹リ療養ノタメ當地ニ於テ下船ス

七月十三日(月)快晴

午前中乗組總員ノ健康診斷ヲ行フ

午後五時三十分拔錨出港ス

### 室蘭出帆現狀

大正十四年七月十三日午後五時三十分

乗組員 十三名  
 生徒員 九十二名  
 普通海員 四十八名  
 計 百五十三名

吃水 前後ノ差  
 前部 十八呎十吋  
 後部 二十呎二吋  
 平均 十九呎六吋  
 計 一呎四吋

排水噸數 「メタセクター」ノ高さ  
 右 フレッシュウォータータンク 三呎八吋  
 中 同 二十四噸  
 左 同 三十九噸  
 計 六十三噸

飲料水  
 フォアピークタンク 六十七噸  
 第一バラストタンク 九十三噸  
 第二 同 百八噸  
 ボイラータンク 五十噸  
 エンヂンタンク 二十五噸五  
 第五アフターディーブタンク 百四十五噸  
 第二 同 七十一噸  
 アフターピークタンク 十七噸  
 計 五百七十六噸五

壓艙水函  
 二百四十五噸  
 計 四百六十九噸五

石炭  
 ディーブタンク石炭庫 二百四十五噸  
 二番艙内 百十噸  
 石炭庫 百十四噸五  
 計 四百六十九噸五

固定「バラスト」  
 一番艙内 百八十噸  
 二番艙内 百十噸  
 三番艙内 五十五噸  
 一番艙内 十九噸  
 計 三百四十五噸

糧食  
 冷蔵庫内 二十四噸  
 米庫内 十七噸  
 後部糧食庫内 二噸  
 計 六十二噸

備考  
 一、固定「バラスト」ハ礫ニシテ二十二立方呎ヲ以テ一噸トス  
 一、壓艙水函ノ現在量ハ全部淡水ナリ  
 一、上記ノ外ニ倉庫品其他約一百噸アリ  
 一、人事移動ハ第八十五期生平井史郎、小柳二二蟲様突起炎ノタメ下船

自室 蘭至「ヒロ」

七月十三日(月)室蘭出帆

午後五時三十五分夕陽斜ナル室蘭港ヲ拔錨シテ東ノ方遙カニ「ヒロ」ニ向フ  
六時四十八分地球岬燈臺ヲ北東三哩ニ航過シ南東微東四分ノ三東ニ定針ス  
時ニ南西一ノ風アリ海波頗ル平穩ナリ

七月十四日(火) 正午位置 北緯 四一度三三分  
東經 一四一度〇二分

黎明左舷前方ニ當リテ山岳ノ連亘セルヲ見シカ五時過襟裳岬視界ニ入り來リ七時十分同燈臺正横北東微  
北四分ノ三北距離十一哩ナリ  
西微北ノ風、風力一晴曇相半ス  
正午風位正西風力ニ増加セシヲ以テ午後零時三十分汽走停止順次展帆針路東二分ノ一南ヲ以テ進ム船  
速二節半

四時風位南西ニ廻リ三ニ増勢シ夜ニ入ルト共ニ風力漸加シ船速七節ニ達ス  
終日快晴氣温暖ク海霧又少キカ如シ  
午後八時學校長宛「十四日午後八時北緯四一度二四分東經一四四度三九分正午ヨリ帆走ニ移ル一同無事」  
ノ旨架電ス

七月十五日(水) 正午位置 北緯 四一度三九分  
東經 一四七度八分

風位南西乃至西南西、風力三終日變ラス晴雨計示度三〇吋空晴レ氣暖カニシテ典型的反恒風ノ性状ヲ呈  
セリ

針路午前東二分ノ一南、午後正東速力最大七節半ヲ算ス  
學習及作業開始、午前火災操練午後荒天準備操練ヲ行フ

七月十六日(木) 正午位置 北緯 四一度四二分  
東經 一四九度四三分

風位午前中南南西ナリシカ爾後左轉ノ傾向ヲ示シ午後一時正南六時南々東ニ至ル一抔開トナシテ進ム風

カハ一、二ノ間ニ在リ午前中針路正東午後東二分ノ一北ニ變針ス

終日快晴、晴雨計示度三〇吋一八五

午前十時東洋汽船春洋丸仲繼學校長宛「十五日午後八時北緯四一度四三分東經一四八度九分南西ノ風、  
順走中一同無事」ト打電ス

七月十七日(金) 正午位置 北緯 四二度一六分  
東經 一五一度三七分

昨夜來右舷一杯開ニテ航走セシカ風位時ト共ニ左轉シ今朝八時南東正午東微北ニ至リ風力一ニ下ル爾後  
風位再ヒ南ニ歸リ午後七時東南東十二時正南ニ廻リシヲ以テ東微南ニ定針ス風力漸加シテ四ニ達シ駛力  
五節半ニ及フ

薄暮海霧四塞セシカ九時過ヨリ微雨ニ變ス

七月十八日(土) 正午位置 北緯 四一度五〇分  
東經 一五四度〇四分

風位南微西風力四、終日變化ナク晝ハ總帆ヲ展裝シ夜ハ輕帆ヲ收メテ進航ス針路東微南、朝夕海霧稍深  
シ

午前洗濯及大掃除施行午後「ブーブデツキ」ニ於テ勇壯ナル軍歌練習ヲ行フ

七月十九日(日) 正午位置 北緯 四一度一一分  
東經 一五八度二三分

風位午前南西トナリシモ午後再ヒ南微西ニ歸ル風力四、之ヲ右舷船尾ニ受ケ東二分ノ一南ニ向ケ快走ス  
昨正午ヨリノ航走距離百九十七哩ヲ算シ平均速力八節三一ニ達ス

七月二十日(月) 正午位置 北緯 四一度五八分  
東經 一六二度四二分

風位南西乃至南微東、風力四乃至五、順走ヲ續ク針路東二分ノ一南駛力八節  
終日曇天時ニ驟雨ノ來ル有リ

七月二十一日(火) 正午位置 北緯 四一度五八分  
東經 一六六度五三分

風位稍々安定シテ正南乃至南微東トナル風力三、四ノ間ニ在リ昨日同様東二分ノ一南ニ向ヒテ快走ヲ繼  
續ス正午迄少雨アリ午後海霧襲來セシモ薄暮散ス、終日曇天

七月二十二日(水) 正午位置 北緯 四一度四八分 東經 一七二度〇一分

正子正南五ノ風ハ漸次風力ヲ加ヘテ午前七時七二達シ駛力十一節ヲ算セシカ驟雨ノ通過スルト共ニ風力  
モ下リ正午五トナル午後風位變化ナク風力四、針路正東ニ航ス

七月二十三日(木) 正午位置 北緯 四一度四一分 東經 一七四度五六分

風位南微西乃至南微東風力三乃至四、針路正東駛力平均七節ニ達ス、午前晴曇相半セシカ午後海霧四塞  
シ遂ニ夜ニ入ルモ晴レス

七月二十四日(金) 正午位置 北緯 四一度四三分 東經 一七九度一六分

風位南微西乃至南々西、風力三乃至四、昨日來東二分ノ一北ニ定針航走中午後四時二十分北緯四十一度  
四十四分ノ地點ニ於テ百八十度經線ヲ航過シテ西半球ニ入ル、時ニ南微西三ノ風アリ晴曇相半ス、本月  
十三日午後室蘭港ヲ出テシヨリ日ヲ閱スルコト茲ニ十一日航距正二千七百七十浬ニ達ス、誠ニ近來稀ニ  
見ルノ好成绩ト謂フヲ得ヘシ

七月二十四日(金) 正午位置 北緯 四一度四九分 東經 一七七度四三分

午前中風位正南乃至南々西風力三ナリシカ午後稍風勢減シ薄暮遂ニ無風状態ニ陥ル、九時南風起リシモ  
風勢吹キ揃ハス

本日ハ土曜日課トナシ午前洗濯及大掃除ヲ行ヒ午後軍歌練習ヲナス

七月二十五日(土) 正午位置 北緯 四一度五二分 東經 一七六度三六分

終日無風状態ニ在リ正午ノ晴雨計示度三〇、五二五吋陰雲ヲ覆フ  
正午百八十度經線通過ヲ兼ネテ第一期生徒歡迎ノ宴ヲ生徒食堂ニ催ス

七月二十六日(日) 正午位置 北緯 四一度五四分 東經 一七六度一六分

午前中ハ昨日ニ引續キ無風状態ナリシカ午後ニ入り東南東一ノ風起リシヲ以テ右舷詰開トナシテ進ム船  
速一節

七月二十七日(月) 正午位置 北緯 四一度二六分 東經 一七六度〇一分

午前東微南乃至正東、午後南東乃至東南東ノ風、風力一乃至二、右舷詰開、昨日正午ヨリノ航距三十四浬  
ニ過キス、終日陰雲多ク晴雨計ハ依然高示度ニ止リ、此太平洋高氣壓圈内ニ突入セルモノト思爲セラル

七月二十八日(火) 正午位置 北緯 四二度五〇分 西經 一七四度五〇分

正子南東微南二ノ風ハ時ト共ニ右轉シ午前四時南微西ニ至リシヲ以テ東微北ニ定針航走ス  
午後風位再ヒ南東ニ歸リ風力三トナル、終日曇天

七月二十九日(水) 正午位置 北緯 四二度四五分 西經 一七一度五〇分

昨日正午ヨリ晴雨計漸次下降ノ兆アリ、正子三〇、一九〇吋ヲ示シ風位南微東風力三、正午南々東夜ニ入  
リ更ニ正南トナリ風力四ニ増加セシヲ以テ「アバール」及「ロイヤル」ヲ收帆ス

七月三十日(木) 正午位置 北緯 四二度四一分 西經 一六八度四七分

正子風位南風力四、晴雨計示度三〇、〇〇、時トナリシモ午前四時二九、九六〇吋ニ急降ス爾後示度ハ恢  
復シ始メシモ風位ハ南乃至南南東ノ間ヲ來往シ風力亦時ト共ニ増勢シ午後八時五ニ達ス、右舷詰開ヲ以  
テ航走、駛力最大六節ナリ

午前曇天午後、一時晴レシモ夜ニ入り海霧襲來ス

七月三十一日(金) 正午位置 北緯 四三度〇二分 西經 一六五度三三分

風位昨日ニ略同シク南々東、風力ハ晴雨計示度ノ恢復ニモ拘ラス漸加シ午前五時六ニ達シ且ツ雨ヲ供ヒ  
來リシヲ以テ各「ロワーグルン」ヲ收ム爾後雨霧交互ニ襲來シ風力時ト共ニ加ハリ正午七ニ達ス右

舷詰開ヲ以テ進ミシカ午後七時ニ至リ風位南微西ニ廻リシヲ以テ東南東ニ定針ス  
駛力平均六節、正子風位南々西ニ廻ルト共ニ風力亦減シテ五トナル、晴雨計示度三〇、〇三五吋ナリ、  
即チ各「ゲルンヌル」ヲ漸時展帆シテ快走ヲ續ケントス

八月一日(土) 正午位置 北緯 四二度一八分 西經 一六二度三三分  
昨日午後ヨリ連吹セシ強風モ氣壓ノ上昇ト共ニ漸次風勢ヲ減シ正午三トナリシカ夜ニ入り稍増勢ス、風  
位南々西乃至南々東、終日東南東ニ定針航走ス駛力最大七節半、終日海霧深シ  
午前洗濯及大掃除ヲ施行ス

八月二日(日) 正午位置 北緯 四〇度三六分 西經 一五九度三五分  
風位南微西乃至南西、風力四乃至五、東南東ニ向ケ總帆ヲ展裝シテ快走ヲ續ク時ニ「スコール」ノ襲來  
スルアリテ船速十節ヲ算スルコトアリ、昨日正午ヨリノ航距百六十八哩  
午前中海霧深カリシモ午後空稍晴ル

八月三日(月) 正午位置 北緯 三九度一五分 西經 一五六度三一分  
數日來ノ順風モ稍勢力ヲ減シ正午ニ夜遂ニ一トナル、風位南微西、船速一節ニ過キス  
氣溫急昇六八度ニ達ス

八月四日(火) 正午位置 北緯 三八度三九分 西經 一五五度二六分  
風位南微東乃至南々西、風力午前一ナリシカ午後二ニ夜ニ入りテ三ニ遞加ス、漸次針路ヲ南折セントシ  
右舷詰開ヲ以テ進ム

八月五日(水) 正午位置 北緯 三七度五三分 西經 一五三度五〇分  
天候快晴、氣溫適良、夜ハ月光明カニ星影溢シ  
風位風力前日ニ全シ、右舷詰開航走中午前九時防火操練ヲ行ヒ次テ直チニ端艇操練ニ移リ第三、四、五及

六號各艇ヲ卸シテ帆走實習ヲナサシム、南西二ノ風アリ海波稍高キカ中ヲ輕艇四隻白帆ヲ展シ舳艫相啣  
ミテ快走スル處實ニ壯觀ト謂フ可シ、十一時本船ヲ止メテ順次各艇ヲ收容シ再ヒ一杯開ヲ以テ航走ヲ續  
ク

八月六日(木) 正午位置 北緯 三七度三〇分 西經 一五一度二九分  
風位稍左轉シテ南々東ニ至ル、風力終日三依然トシテ右舷詰開、晴曇相半ス

八月七日(金) 正午位置 北緯 三七度二五分 西經 一四九度一二分  
風位變化ナキモ風力漸次弱リ黎明ニ正午一トナル  
終日快晴、水平線上積雲ノ湧出セルヲ見ルモ風風キ南東ノ長濤來リテ船体ヲ動搖セシムルノミ午前午後  
ニ亘リテ總帆ヲ夏季用ノモノト取替ユ

八月八日(土) 正午位置 北緯 三七度二三分 西經 一四八度四六分  
正子過途ニ無風状態ニ陥リ總帆空シク垂レテ長濤ノタメ動搖スルノミナリシカ正午南東微東一ノ風吹キ  
起リシヲ以テ左舷詰開トナシテ進航ス、針路概ネ南々東  
午前洗濯及大掃除ヲ行ヒ午後ハ後甲板上ニ於テ勇壯ナル軍歌練習ヲ爲ス  
午後氣溫急昇八六度ニ至リ積雲、亂積雲湧起シテ盛夏ノ光景ヲ呈ス

昨日正午ヨリノ航距二十一哩ニ過キス

八月九日(日) 正午位置 北緯 三七度一一分 西經 一四九度二四分  
昨日來東方ノ長濤アリ今朝ハ卷雲東ヨリ流ル、ヲ見シカ午前中南々東一ノ風ハ午後東微南ニ變リシヲ  
以テ南々西ニ定針次テ午後八時南二分ノ一東ニ變針、一路南下シテ北東恒風帶ニ入ラントス

八月十日(月) 正午位置 北緯 三五度五四分 西經 一五〇度二三分  
風位正東乃至東微北、風力二、三ノ間ニ在リ午前南二分ノ一東午後南四分ノ三東ニ定針航走ス、船速最大

五節半

八月十一日(火) 正午位置 北緯 三四度一六分 西經 一五〇度四三分

正子風位東微北風力三ナリシカ後風稍風キテ一トナリシモ午後再増勢シ夜ニ入り風力四ヲ算ス、午後南二分ノ一東ニ變針、駛力六節 終日陰雲多シ

八月十二日(水) 正午位置 北緯 三一度五九分 西經 一五一度二九分

風位東北東風力三乃至五、青空碧波、北東恒風ノ特徵明カナリ、針路午前中南二分ノ一東ナリシカ正午ノ觀測ニヨレハ偏西ノ海流アルヲ以テ午後南々東ニ變針ス、船速平均六節半

八月十三日(木) 正午位置 北緯 二九度三七分 西經 一五一度三七分

風位東微北風力三乃至五、正午南微東四分ノ一東ニ變針航走ス昨日正午ヨリノ航距百四十四哩

八月十四日(金) 正午位置 北緯 二六度五〇分 西經 一五二度〇一分

風位東北東風力四終日變化ナク正南ニ航走ス駛力平均七節、午前洗濯及大掃除ヲ行ヒ午後ハ總員入港用意ノ作業ニ従事ス

午前十時「ワヒアワ」局ヲ喚呼シ左ノ電報ヲ發ス 在布哇總領事宛

「敬意ヲ表ス月曜正午ヒロ入港豫定」

「ヒロ」日本人會、布哇毎日、布哇朝日各新聞社宛

「敬意ヲ表ス、月曜正午入港豫定」

夜十時「ヒロ」日本人會ヨリ

「喜ンテ貴船ノ御安着ヲ待ツ」

旨ノ入電アリ折返シ

「御厚意ヲ謝ス、十日程滞在ノ豫定宜シク頼ム」ト返電ス

八月十六日(日) 正午位置 北緯 二一度四六分 西經 一五三度五〇分

風位北東微東乃至東北東、風力三乃至四午前針路正南ナリシカ午後南微西ニ變針航走ス、本日正午位置ヨリ「ヒロ」港ハ南三十度西、百四十五哩ニアリ

八月十七日(月) 正午位置 北緯 一九度五二分 西經 一五五度〇三分

正子過キヨリ風力漸次遞減シ北東一ノ風トナル、午前八時兩舷機ヲ以テ汽走ヲ開始シ、漸次各帆ヲ收ム時ニ右舷前方遙カニ雲表ニ雄大ナル山岳ノ聳ユルヲ見ル之「マウナケヤ」山ナリ

午後零時十六分「アリアポイント」燈臺ヲ西微北距離六哩半ニ通過シ「ヒロ」港口ニ向フ、全零時五十分二分水先人「バーカー」氏乗船、全五十六分港口打鐘浮標ヲ通過シテ港内ニ入り全一時五分左舷錨ヲ投ス

錨 地方位

打鐘 浮標

北二四度西

「モクバネ」桂燈立標

南二六度西

「ワイアレアー」全

南五一度東

水 深

六尋

底 質

泥

錨 鎖

左四十五尋

茲ニ「ヒロ」港ニ安着シ第三十二次遠洋航海往航ヲ無事終了ス

### 往航統計

全航海日數 三十八日二十三時三十八分  
 全航程 五千〇二十二哩  
 內譯  
 帆走日數 三十四日二十一時三分  
 同距離 四千二百五十九哩  
 一日平均 百二十二哩二〇  
 一時間平均 五哩〇九  
 汽走日數 四日二時三十五分  
 全距離 七百六十三哩  
 一日平均 百八十五哩七三  
 一時間平均 七哩七五

### 自品川至「ヒロ」

月日	緯度	經度	直航針路	航程	風向	風力	晴雨計	氣温	海温	潮向	潮速
六月二十八日	羽	田	不定	四	南	一	元壹	七	七		
二十九日	橫濱	沖	不定	三	南	一	元壹	七	七		
三十日	橫濱	港	不定	一	東	一	元壹	七	七		

月日	緯度	經度	直航針路	航程	風向	風力	晴雨計	氣温	海温	潮向	潮速
七月一日	橫濱	山	不定	元	北	二	元壹	七	七		
二日	館	山	不定	元	北	二	元壹	七	七		
三日	北六五	東四一〇	北一六東	二〇七	北	二	元壹	七	七		
四日	北四〇	東四一〇	北六東	二〇七	北	二	元壹	七	七		
五日	室	蘭	不定	二	西	一	元壹	七	七		
六日	室	蘭	不定	二	西	一	元壹	七	七		
七日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
八日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
九日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
十日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
十一日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
十二日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
十三日	室	蘭	不定	二	東	一	元壹	七	七		
十四日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
十五日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
十六日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
十七日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
十八日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
十九日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		
二十日	北四三	東四〇三	南七四東	二六	南	一	元壹	七	七		



八	七	六	五	四	三	二	一	三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二	二十一
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三
西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六
南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東	南八五東
二	一	一	二	二	三	三	四	三	二	一	一	一	一	一	二	三	四	五
三	二	一	一	二	二	三	三	四	三	二	一	一	一	一	二	三	四	五
北	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
北	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
東	東	東	西	西	西	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六

「ヒロ」港碇泊日誌

九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七
日	日	日	日	日	日	日	日	日
北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三	北七三三
西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六	西一四八六
南六八四	南六八四	南六八四	南六八四	南六八四	南六八四	南六八四	南六八四	南六八四
三	二	一	一	二	二	三	三	四
三	二	一	一	二	二	三	三	四
北	南	南	南	南	南	南	南	南
北	南	南	南	南	南	南	南	南
東	東	東	東	東	東	東	東	東
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
七	七	七	七	七	七	七	七	七
七	七	七	七	七	七	七	七	七
北	北	北	北	北	北	北	北	北
北	北	北	北	北	北	北	北	北
九	九	九	九	九	九	九	九	九
九	九	九	九	九	九	九	九	九

八月十七日(月)曇  
 午後一時入港、檢疫終了ト共ニ在留同胞歓迎委員、邦字新聞記者來船安着ノ祝詞ヲ受ケ且ツ碇泊中ノ行  
 動ニ付キ打合セテ爲ス  
 當地亞米利加在郷軍人團支部ヨリ毎日午後其「ホテル」ヲ生徒ニ公開シ且ツ來週火曜日夜拳闘會ニ招待  
 スヘキ旨ノ通知ヲ受ケ、驟雨少ク暑氣稍甚シ  
 八月十八日(火)晴  
 一天雲無ク晴レテ「マウナケア」ノ清容手ニ取ルカ如シ、生徒普通海員半艇一日上陸車ヲ郊外ニ驅リテ

「虹の瀧」等ヲ觀光スル者多ク全市到處生徒ノ白服姿ヲ見サル無シ  
午前十時船長及專任教官ハ武居氏ノ案内ニテ左記官衙ヲ歴訪シテ着港ノ挨拶ヲ爲ス所アリ

午後二時學校長宛「十七日着皆無事二十七日出港」ト架電ス

八月十九日(水)曇

生徒普通海員半艇一日上陸

午後專任教官ハ布哇毎日、布哇朝日及火山ノ各邦字新聞社ヲ歴訪シテ入港ノ挨拶ヲ爲ス

椰子島少年少女船ニ來リテ喜戯スル者多シ柔道部員ハ昨日ヨリ毎夜心勇會道場ニ於テ練習試合ヲ行ヒ當地青年ヲ激勵スルコト、ス

八月二十日(木)曇、雨

生徒普通海員半艇一日上陸

午後一時事務所前ニ集合、日本人會ノ好意ニヨリ自動車十二臺ニ分乘シテ郊外ヲ快走シ「キラウエア」火山ノ絶景ヲ賞シテ夕方歸船ス

船長及專任教官ハ故菊地學生ノ墓碑ヲ陸揚シ日本人會委員ト共ニ郊外「アラエ」邦人墓地ニ至リ建立ヲ爲ス

本航ハ順風多ク約一週間早着トナリ豫定日限ニ數日ノ豫猶ヲ得タルヲ以テ之ヲ利用シ「マウイ」島「カフルイ」寄港見學ヲナサシムノ利益ナルヲ想ヒ學校長宛

「二十七日出帆「マウイ」島「カフルイ」港ニ寄港シ二日間見學ノ上歸途ニ就ク許可アリタシ」ト架電シ全時ニ在布哇總領事ニ「カフルイ」寄港取計方ヲ依頼ス

所要海面四枚定期船「ハレアカラ」號船長ヨリ寄贈サレタリ

八月二十一日(金)曇

生徒及普通海員半艇一日上陸前日全様「キラウエア」火山見學

劍道部員ハ夜心勇會道場ニ於テ練習ヲ行フ、柔道部員全部ハ午後六時「オーラア」道場ニ至リ青年會員ト演技ヲ行ヒ十時歸船ス

八月二十二日(土)雨

陰雲空ヲ覆ヒ驟雨ノ去來頻々タリ

午前八時半水先人「バーカー」氏來船、錨ヲ揚ケテ「クヒオ」棧橋ニ向ヒ九時十五分第一號棧橋ニ繫止シ終ル

驟雨ノ來襲激シキモ豫定ノ通り建碑式舉行ノ事トナシ午後二時半生徒總員自動車六十臺ヲ連ネテ郊外「アラエ」邦人墓地ニ至ル

二時四十分驟雨漸ク晴レシヲ以テ船長司會ノ下ニ直チニ始式、真言宗法眼寺住職末富見天師導師トナリ

大正寺住職後藤古仙師、本願寺住職武田白道師及明照院住職原哲雄師等ノ讀經アリ次テ船長士官及生徒各總代、在留同胞各團體代表者在留同胞有志ノ焼香アリ、續キテ左記弔詞ヲ墓前ニ手向ク

長山 生徒總代 菅 芳 弘氏

心勇會代表者 高 垣 爲 吉氏

「ヒロ」邦字新聞社代表者 大 久 保 源 一 氏

布哇島中央教育會代表者 武 内 常 男 氏

佛敎青年會代表者 丸 谷 松 夫 氏

船長一弔詞

故菊地延次郎君ニ謹テ一言ス

昨年君ヲ亡ナヒ僅カニ遺髪ヲ護リテ歸ルヤ、莊嚴ナル本葬ヲ菩提所ニ擧ケラレ予亦前ノ專任教官ト共ニ會葬シタリ、其日君ノ嚴父ハ悵然悲嘆久フシテ後チ、予等ニ語ル所アリ、其ノ意ニ曰ク、君ハ幼少ヨリ外遊ノ志篤ク、青年ニ至リ商船學校ニ入學シ桔槔精勵、優等成績ヲ以テ學課ヲ卒リ、海軍砲術學校ヲ卒業シテ練習船ニ乗船ヲ命セラレタリ、以後偶々休暇ヲ與ヘラレテ歸省スルヤ、父兄ニ説クニ必ス世界ノ大勢ヲ以テシ、我國海軍ノ肝要ナルヲ痛説シ、身ヲ捧ケテ是ニ盡サントスルノ決意ヲ告ケ、且ツ更ニ、男子到處青山アリ骨ヲ埋ム必シモ墳墓ノ地ノミナラサルヲ談笑シタルカ常ナレハ、今ヤ萬里異域ニ眠ムル或ハ亦其ノ本懐ナラン、唯其業半途ニシテ此事アリシハ本人ノ遺憾モ推セラレ、可憐愛惜ニ耐エス、願クハ末弟ヲシテ遺志ヲ繼カシメ帝國海軍ニ盡瘁シテ報國忠誠ノ實ヲ表シ、以テ靈魂ヲ慰藉スル所有ラントス、乞フ爲メニ復タ其指導ヲ垂レヨト、言終リテ法然タリ、噫父君ノ言何ソ甚タ悲壯ナル、既ニ麟兒ヲ奪ハレ更ニ鳳兒ニ代ラシメテ遺業完成ヲ期ス、其意氣何ソ甚タ勇烈ナル、眞ニ以テ衝天ノ慨ト稱スヘキナリ、茲ニ曰ク此父ニシテ此子アリト、父君ト君ト實ニ此言ノ如シ、而シテ君ノ慈母令姉ハ父君ノ言ニ應ジテ悲泣セラレ、兄弟諸氏皆嗷嗷セサル無シ、嗚呼昊天罔極恩愛ノ情且ツ高ク且ツ深ク、哀悼愁傷湧出止マス、會衆皆感ニ打タレ滿座嗚咽ノ聲溢ル夫レ壯齒盛年ノ身ヲ以テ、雄偉ノ志望ヲ懷キ業漸ク成ラントスルニ當リ、突如二豎ノ冒ス所トナリ、就藤四旬餘日藥石効無ク、流焉長逝ス、何等ノ痛恨力之レニ如カンヤ、吾人ハ君ト同窓同志ノ誼アリ、同船起居シ同餐食ヲ分チ、殆ト期年ヲ相共ニシタル者、悲悼何ソ極ラン、況ンヤ予ハ幾多健兒ヲ付託サレ父兄ニ代ルノ責アルヲ想フニ於テオヤ、當時君ノ愈々起タサルヲ見タル予ハ茫然度ヲ失シ、爲ス所ヲ知ラザリキ、漸クニシテ船友ニ計リ、當地諸彦ノ同情ニ頼リ、盛大ナル葬儀ヲ行フコトヲ得タルモ、嘆餘ノ哀ハ蘇々トシテ糸ノ如ク、之ヲ回想セハ今尙涙下ルヲ覺ユ

噫ソレ然リ、而レトモ驟然更ニ思ヘハ、浮世ハ夢ノ若ク老少ノ順定リアルコト無シ、朝ノ紅顏夕ニ花シテ白骨トナリ棉花朝露ノ消ユルカ如ク、又夢中夢ヲ占フニ假タルモノアハ、人生免レ難キ命數ナラスヤ佛書教ヘテ之ヲ三界ノ假宅ト稱シ、又風中ノ燭ト唱シ、又苦惱衆病ノ集マル所ト説キ、如泡沫、如夢幻如影、如響ト譬フ所、誠ニ故アル哉、逝者ハ幽渺ニシテ語ル所ナク、留ル者ハ睚ヲ膨ラシテ泣クモ亦及フコトナシ、故ニ曰ク三實ニ歸依シテ佛身ヲ信樂スヘシト、佛身ハ法身ナリ一切衆生ノ累ヲ超脱シ、無上清淨ノ法界ニ住スルヲ謂フ、想フニ君カ英靈ハ既ニ佛國ニ入り、無量福照ノ佛恩ニ浴シ、無上正等菩提ヲ得、自在圓滿安樂ナラン、吾人ハ一ハラ君ノ冥福ヲ祈ル所蓋シ亦茲ニ歸セン、而シテ又君カ遺體ハ爾來靜カニ此所ニ安息シ將來永ク亦應ニ然ラン噫悼イ哉、然レトモ此地ハ則チ布哇ニ於ケル同胞ノ墓所ニシテ高燥宏壯光景優雅ノ清境タリ、俯シテ瞰レハ、清波激澗トシテ麓脚ヲ洗ヒ、遙カ東方天涯ニ連ルアリ、願テ仰ケハ崇峯巍然、雲霄ニ聳テ清秀ノ氣掬スヘキアリ、四季常翠風致幽深、草木ニハ蔓陀羅華絶ユルコトナク、鳥蟲ニハ晝夜六時和雅ノ音アリ、誠ニ得難キノ靈地タルヲ見ル、亦以テ君ノ遺軀ヲ安スルニ足ラン

茲ニ知人同窓相會シ、恭シク禮奠ヲ擧ケテ碑石ヲ建テ、永ク貼シテ有志ニ傳ヘ以テ來詣雄魄ヲ弔スル者ノ絶ユサランコトヲ希フ、敢テ賦スルニ短句二首ヲ以テシ重ネテ追悼ノ意ヲ致ス、乞フ勞勩トシテ來リ亭ケヨ

其一

刻苦多年誓樹功 異鄉埋骨恨何窮  
男兒氣魄唯堪慰 孤墳千歲大濤風

其二

是夢浮世死果眞 雄心空息墓碣新

雲濤煙浪滔々處 千里長風淚沾巾

大正十四年八月二十二日

東京高等商船學校練習船大成丸

船長 淺利 孝爾

斯クテ三時四十分式ヲ終リ一同墓碑ノ周圍ニ參集シテ紀念ノ撮影ヲ爲ス、參列者百五十餘名供花ハ碑ヲ被ヒ、香煙縷々、細雨再ヒ催シ風蕭々天モ亦憐ムニ似タリ四時半終リ一同歸船  
夜六時半ヨリ本船後甲板上ニ於テ當地在住辯護士川崎寬吾氏ノ本群島事情ニ關スル有益ナル講演アリ八時終ル

本日午後在布哇總領事ヨリ

「貴船「カフルイ」寄港ノ件官憲ト交渉濟廻航支障無シ「カフルイ」在留邦人ヘモ電報シ置ケリ」トノ入電アリ

八月二十三日(日)晴

曇勝チナリシ空モ漸ク晴レ渡リシヲ以テ事業始ヨリ「アットホーム」開催準備ニ着手シ正午近ク船内飾付等萬般ノ用意整フ、既ニ朝來參觀ノ人三々伍々アリシカ定刻一時トナルヤ陸續來船午後二時過既ニ其數三千ト籌セラル、直チニ柔剣道ヲ開始シ、模擬店ヲ公開シ一同來客ノ接待ニ盡ス、水泳、音樂、餘興假裝行列等豫定ノ「プロگرام」ヲ進メ午後六時萬歲聲裡ニ閉會ス  
本日ノ參會者ハ内外人、老若男女ヲ含ミ其數六千ト稱セラル、船内立錫ノ餘地ダニ無ク近來稀ニ見ルノ盛況ナリヤ  
午前十時ヨリ十一時迄佛教青年會ノ求メニ應ジ小田義士、浦山由松兩生徒一場ノ講演ヲナス  
尙夜七時郊外「カイビキ」在留同胞ノ求メニヨリ淺井二等運轉士及小田義士、小林勇英ノ兩生徒同地ニ

赴キ小學校ニ於テ講演ヲ爲ス

八月二十四日(月)晴

生徒及普通海員半艇一日上陸

午後一時半第二號棧橋ニ移ル

當地「アメリカカン、リーデジョン」ノ招待ニヨリ生徒一同七時半ヨリ「アーミー、ホール」ニ至リ拳闘仕合ヲ見學シ終リテ茶菓ノ饗應ニ預リ十時歸船ス

本日飲料水二百六十噸ヲ取入ル

八月二十五日(火)驟雨多シ

生徒總員日本人會ノ案内ニヨリ八時半出發汽車ニテ「オーラー」ニ至リ同地ノ砂糖工場ヲ見學ノ上正午歸船ス、二時半棧橋ヲ離レテ錨泊ス

夜七時半ヨリ有樂館ニ於テ交驩會開催六時既ニ滿員トナルノ盛況ヲ示ス、手踊、土人踊、三曲合奏、安來節、ハーモニカ、劔舞等何レモ喝采ヲ博シ十一時校歌合唱、萬歲ヲ三唱シテ閉會ス

今朝學校長ヨリ「カフルイ」寄港ノ件許可ス旨ノ入電アリシヲ以テ愈々確定ノ上、馬哇島「ワイルク」馬哇新聞社長、安井氏及馬哇「レコード」社長大塚氏宛

「二十八日朝着豫定」ト打電ス

八月二十六日(水)雨滋シ

生徒普通海員半艇一日上陸

專任教官ハ森本、粟倉ノ二生徒ト共ニ「ワイアケアウカ」ノ日本語學校ニ赴キ同地兒童ノタメニ講演ヲナス、夜船長及專任教官ハ心勇會本部ニ於テ當地青年ノタメニ講演ヲ行ヒ又淺井二等運轉士ハ小森、小林兩生徒ト共ニ「ワイヤケアウカ」日本語學校ニ至リ同地在留同胞ノ爲メニ講演ヲ行フ

夜驟雨殊ニ激シ

本日船長ハ布哇毎日新聞社長徳城氏及同主筆大久保氏同伴菊地學生ノ墓地ニ參詣ス

八月二十七日(木)雨後曇

午前中船長及專任教官ハ法眼寺、大正寺、本願寺、明照院、三邦字新聞社ヲ廻リ、碇泊中ノ好意ヲ謝スル處アリ

午後四時半細雨煙ル中ヲ拔錨シテ馬哇島「カフルイ」港ニ向フ

### 「ヒロ」港出帆現狀

大正十四年八月二十七日午後四時

職員	十三名
乗組員	九十二名
普通海員	四十八名
前部	十八呎十吋
後部	十九呎十吋
平均	十九呎四吋
前後ノ差	一呎〇吋
排水機ノ噸數	三千九百四十噸
「メタセント」ノ高サ	三呎七吋五

右レツシユウオータータンク	三十九噸
中左同凡番	計九十五噸五
左同	計九十五噸五
フオアービークタンク	七十五噸
第一バラストタンク	九十三噸
第二同	九十三噸
ボイラータンク	五十噸
エンデンタンク	三十七噸
第一アフターデイブタンク	百四十五噸
第二同	七十一噸
アフタービークタンク	七十二噸五
デイーブタンク	二百四十五噸
二番艙内	計四百二十噸五
石炭庫	六十五噸五
一、二番艙内	百八十噸
固定「バラスト」	計三百四十五噸
三番艙内	百十噸
一番艙内	五十五噸
冷蔵庫内	十四噸
米庫内	計四十一噸

後部糧食庫内

- 一、固定「バラスト」ハ礫ニシテ二十二立方呎ヲ以テ一噸トス
- 一、壓艙水函ノ現在量ハ全部淡水ナリ
- 一、前記ノ外倉庫品其他約一百噸アリ

自「ヒロ」至「カフルイ」

八月二十七日(木)「ヒロ」出帆

終日陰雲低迷シ驟雨ノ去來頻々タリ、午後見送ノ訪客多シ、四時主客士官食堂ニ會シテ祝杯ヲ舉ケ來客一同退船午後四時十五分細雨煙ル「ヒロ」港ヲ後ニシテ馬哇島「カフルイ」ニ向フ  
 港外ニ出ツルヤ二三日来連吹セシ強力ナル北東恒風ノ名残ヲ留メテ長濤ノ襲來頻リニ船体ノ動搖激シ、五時三十分「アリア、ポイント」燈臺ニ並航、正西距離一哩半、之ヨリ北西ニ定針ス、七時「ラウバホエホエ」燈火正横南西距離五哩ナリ

八月二十八日(金)「カフルイ」入港

昨夕以來北西ニ定針航走中午前二時ニ至リ馬哇島東端「カウイキ、ヘッド」燈火ヲ南西微西ニ望ミ見シヲ以テ西北西ニ轉針、二時五十二分同燈火正横(南々西)距離十一哩ナリ、黎明ニ及ヒ陸岸漸次視界ニ入り來リ左舷正横遙カニ「ハレアカラ」山ノ清容ヲ望ムヲ得タリ、適宜轉針シツ、「カフルイ」港口ニ向ヒ、七時三十五分「フエア、ウエイ、ブイ」ニ並航西二分ノ一北距離二分ノ一哩、七時五十六分港外ニ於テ水先人「ジュエニング」氏來船同氏指揮ノ下ニ八時二十分防波堤ヲ過リテ港内ニ入り同三十分新棧橋ニ繫留シ終ル

「カフルイ」港碇泊日誌

八月二十八日(金)快晴

午前八時三十分「カフルイ」港ニ入り大棧橋ニ繫留ス、當地在留同胞歡迎委員長東福寺氏、副委員長山城、犬畑氏、安井馬哇新聞社長、大塚馬哇「レコトド」社長其他當地商業會議所代表ノ外人四名來船安着ノ祝辭ヲ受ク、尙同時ニ當地ノ少女十數名來船士官生徒總員ニ對シ美麗ナル手製ノ「レイ」(首飾)ヲ贈リテ歡迎ノ厚意ヲ表示サル、一同士官食堂ニ於テ乾杯シ終リテ碇泊中ノ行動ニ付キ諸般ノ打合せヲ爲ス  
 午後一時一同自動車ヲ連ネテ「カフルイ」邦語學校ナル歡迎場ニ赴ク、席定マルヤ東福寺委員長立テテ「初メテ大成丸ヲ迎フルノ喜」ヲ述ヘ船長之ニ對シテ謝辭ヲ呈シ、萬歳ヲ三唱シテ會ヲ終リ庭前ニ於テ紀念撮影ヲ爲ス  
 一同ハ直チニ自動車ヲ驅リテ「ハイタク」耕地ニ赴キ「バイナツブル」栽培及鑛詰製造ノ實況ヲ見學シ沿道ノ風光ヲ賞シツ、午後五時歸船ス  
 船長及專任教官ハ東福寺、大塚、木下諸氏同伴ニテ「カフルイ」及「ワイルク」在住外人ヲ屢訪シテ入港ノ挨拶ヲ爲ス所アリタリ

- |                |               |
|----------------|---------------|
| カフルイ 鐵道會社社長    | ウイリアム、ワルシユ氏   |
| ポール、ドゥイン銀行支配人  | ジエー、ジエー、ワルシユ氏 |
| ワイルク、シュガー會社支配人 | エツチ、ビー、ペンホロー氏 |
| マウイ銀行頭取商業會議所會頭 | シー、デー、ラフキン氏   |

郡長 サム、カラマ氏  
 ハワイ、コマーシャル、アンド  
 エフ、テオ、ポールドウイン氏  
 マウイ、アグリカルチュラ、社支配人  
 エツチ、エト、ポールドウイン氏  
 止、院 議員  
 ハロールド、ライズ氏  
 エー、タバロー氏

夜浅井三等運轉士、小森、榛澤、小田、大津四生徒ヲ伴ヒ「スプレツクルスグイル」邦語學校ニ至リ同  
 地在留同胞ヲタメニ講演ヲ爲ス處アリタリ  
 八月二十九日(土)晴

生徒及普通海員半艇一日上陸、午前中日本人會ノ好意ニヨリ自動車ニテ當島隨テ景勝ト稱セラル、  
 「イアオ」溪谷ノ觀光ヲナシ午後自由散步ニ充ツ

午後一時ヨリ「カフルイ」共進會場ニ於テ合同大相撲ノ催アリ海陸各々三十餘名ノ力士ヲ出シ雄壯ナル  
 取組十數番ヲタリ、本島ハ邦船ノ來航スルモノ極メテ稀ニシテ各地方在住ノ同胞等シク所謂「内地人」ニ接觸セン事ヲ切望  
 スルノ有様ニ付キ入港勿々講演會開催ノ旨ヲ通シ置キシ處續々申込アリ、本日ハ左記七ヶ所ニ於テ第一  
 回ノ講演會ヲ開催ス

- 地名 士官 生徒  
 大羽二等運轉士 本田、長島、鈴木清  
 小野專任教官 前田、木村憲  
 西澤二等運轉士 大島、西川  
 淺井三等運轉士 片寄、土方

ハヤクワボコニ加藤事務長、二、竜實、小林忠  
 各地共午後八時頃ヨリ開催、何レモ滿員ノ盛況ヲ呈セリ

八月三十日(日)晴、一、水、後藤無線取扱主任 佐井、大津、谷田  
 午前五時ヨリ水先人指揮ノ下ニ舊棧橋ニ移リ六時緊止シ終ル、午前中共進會場ニ於テ野球、庭球ノ仕合  
 ラ行フ

朝ヨリ總員「アットホーム」開催ノ準備ニ着手シ正午終ル、定刻一時トナルヤ在留邦人、外人等陸續來  
 船シ船内立錫ノ餘地ナキニ至レリ、柔劍道仕合ヲ行ヒ模擬店ヲ開キテ歡待スル處アリ午後五時閉會ス  
 本日入場者約五千ト算セラレ殆全馬哇島同胞ヲ網羅セルノ感アリ

同七時士官十名ハ「ワイルク」支那料理店東方雜碎ニ於ケル在留同胞主催ノ晚餐會ニ臨ム、當島在留ノ  
 主タル人々約一百名參集外人七名ヲ算シ頗ル盛會ナリキ、浪花節、喜劇、手品、  
 七時半會ヲ終リ直チニ「カフルイ」ニ引返シ同地劇場ニ於ケル交歡會ニ列席ス、浪花節、喜劇、手品、  
 尺八、小供唱歌及「ダンス」等二十數番ノ餘興アリ十一時盛大會裏ニ散會ス

八月三十一日(月)晴、生徒及普通海員半艇一日上陸、八時半ヨリ自動車ヲ連ネテ「イアオ」溪谷ノ景ヲ賞シ、午後八時頃ヨリ左記各地ニ於テ第二回講演會ヲ開ク

- 地名 士官 生徒  
 齋藤機關長 片寄、篠原  
 飯塚船醫

加藤事務長 大島、本田  
小森、前田、中澤、矢野

船長及專任教官ハ「ラハイナ」方面見學ノ後榎澤村田兩學生ト共ニ同地人士ノ需メニ應シ本願寺小學校ニ於ケル講演會ニ出席ノ上十一時過船ニ歸ル

九月一日(火)晴

午前四時總員起床、薄明ノ下ニ出港準備ヲ整フ「カフルイ」「ワイルク」ノ人士匆起車ヲ驅リテ來ル者多ク談笑ノ聲甲板ニ滿ツ、東福寺委員長、安井氏、大塚氏等一同士官食堂ニ會シテ別杯ヲ酌ミ相互ノ健康ヲ祝ス、四時半水先人來船セシヲ以テ來客ヲ卸シ同四時五十分棧橋上、ノ萬歲聲裡ニ解纜橫濱ニ向ク時ニ曙光漸ク「ハレアカラ」ノ峻峯ニ映シ初メタルモ麓ノ町ハ未タ夜ノ幕ノ内ニアリ、空名殘ナク晴レテ北東恒風盛ンニ連吹ス

### 馬哇島事情

(甲) 島勢概記  
一、位置 布哇列島中南ヨリ二番目ニ位スル島嶼ニシテ北西ノ方「バイロロ」水道(副員八哩)ヲ隔テ、「モロカイ」島ニ、西方「アウアウ」水道(副員七哩)ヲ隔テ、「ラナイ」島ニ、南西ノ方「アララ、ケイキ」水道(副員六哩)ヲ隔テ、「カホーラエ」島ニ對シ東南方遙カニ二十三哩ノ海上ニ布哇島ヲ望ムヲ得可シ

今經緯度ヲ示セハ次ノ如シ  
北緯二〇度三五分——二一度〇二分  
西經一五五度五九分——一五六度四二分

一、面積 積上積下ノ面積ハ約一萬六千六百六十坪ニシテ、全島ノ全形ハ瓢ヲ横ヘタルカ如ク、東西兩馬哇ニ分ル、右半分ハ總面積ノ四分ノ三ヲ占メ所謂「東マウイ」ヲ成シ有名ナル「ハレアカラ」火口(標高一〇、〇三三呎)ヲ中心ニシテ裾野東南西北ニ開ケタリ、左半分ハ總面積ノ四分ノ一ヲ占メ所謂「西マウイ」ヲ成シ「エケ」噴火口(標高五、七八八呎)之カ中心タリ此兩高地ノ中間ニ南北ニ亘ル「カフルイ」「キヘイ」ノ低地アリ、幅員約六哩ニ達ス

一、地勢 全島ノ全形ハ瓢ヲ横ヘタルカ如ク、東西兩馬哇ニ分ル、右半分ハ總面積ノ四分ノ三ヲ占メ所謂「東マウイ」ヲ成シ有名ナル「ハレアカラ」火口(標高一〇、〇三三呎)ヲ中心ニシテ裾野東南西北ニ開ケタリ、左半分ハ總面積ノ四分ノ一ヲ占メ所謂「西マウイ」ヲ成シ「エケ」噴火口(標高五、七八八呎)之カ中心タリ此兩高地ノ中間ニ南北ニ亘ル「カフルイ」「キヘイ」ノ低地アリ、幅員約六哩ニ達ス

一、氣候 四季ヲ通シテ雨量概シテ少シ、北岸一帶ハ北東恒風不斷ニ連吹セルヲ以テ暑氣ヲ減シ慈雨ヲ齎スコト多キモ南岸一帶ハ風下側ニ當ルヲ以テ雨量少ク、暑氣殊ニ甚シト謂フ

一、行政區域 行政上馬哇郡ト稱スルハ馬哇島(七二八平方哩)「ラナイ」島(一四九平方哩)「モロカイ」島(二六〇平方哩)及「カホーラウエ」島(四四平方哩)ノ四島(合計一、一八一平方哩)ヲ包含スルモノニシテ之ヲ分チテ「ワイルク」「ラハイナ」「ハナ」「マガワオ」及「モロカイ」ノ五地方(デイレストヲクト)ニ區分セリ

郡役所ヲ馬哇島「ワイルク」町ニ置キ五人ヨリ成ル郡參事會一切ノ郡務ヲ處理ス、其他ニ警察署長、書



記、會計、檢事及會計検査官等アリ、何レモ郡民ノ公選スル所ニシテ郡務ヲ分掌ス

一、人口  
一九二〇年國勢調査ノ結果ニヨル本郡人口ハ三七、三八五人ニシテ今各地方別ニ示セハ次ノ如シ

一、人口密度一平方哩ニ付キ三九人七ニシテ最近十ヶ年ノ人口増加率ハ三三、四「パーセント」ニ達セリト

一、交通  
海運ハ「インダト、アトラント」汽船會社經營ノ航路アリ「カフルイ」「バナ」「カヌカバ」等ニ寄港シ別ニ「マトソン」汽船會社ノ汽船「カフルイ」ニ寄港ス

一、産業  
本島ニ於ケル産業ノ主ナルモノハ布哇ノ二大産業ト稱セラル、砂糖及鳳梨(バナナップ)ナリ

一、鳳梨  
島中ノ二位ニ位シ全量五十五萬六千九百噸ノ二四、四「パーセント」ニ當ル

(乙)「カフルイ」港事情  
東西兩馬哇ヲ連結セル地峽ノ兩端ハ自ラ半圓形ヲ成シテ二ツノ灣ヲ形成ス、南ナルヲ「マラーエア」ト稱シ北ナルヲ「カフルイ」港ト爲ス

一、防波堤  
珊瑚礁破片ヲ以テ築造セル粗末ナルモノニシテ東防波堤ハ延長約六〇〇碼ノ小半島ノ尖端ヨリ造ラレ長サ約三三〇碼、西防波堤ハ灣ノ岸砂西濱ヨリ出テ其長サ六〇〇碼、港口ノ幅員約五五〇碼アリ

一、水  
深 五尋四分ノ一乃至六尋

一、水路設備

「フエアーウエーアイ」港外二哩（港口ノ正北）ノ處ニ赤色塗柱燈浮標アリ、視認シ難シ、燈臺ハ西防波堤尖端ニアリ、閃光七秒半光達十哩、燈臺ノ構造ハ「フレームワーク」ナルヲ以テ晝間ノ視認困難ナリ、導燈（レンジライト）灣頭ニアリ、前燈赤色、後燈綠色、方位線磁針方位南二十六度東トナレルモ之又晝間ニ在リテハ識別不可能ナリ

一、岸 壁（俗ニ新棧橋ト稱シ居レリ）

長サ二五〇碼、水深五尋以上ノ部分一八〇碼アリ、鐵道引込線二條、陸上倉庫ハ長サ一三〇碼、巾五〇碼、鐵骨、トタン葺、一階建ニシテ、屋内引込線一條アリ袋入砂糖ヲ格納シアリ

一、棧 橋（舊棧橋ト稱シ居レリ）

岸壁ノ西方二六〇碼程ニ在リ之ニ平行ス、兩者ノ間ハ好個ノ碇泊地ナルモ岸壁ニ船舶碇繫セル時ハ兩者ノ中間ノ碇泊ハ不便ナリ、本棧橋ハ木造ニシテ長サ百呎弱、同シク木造ノ上屋アルモ既ニ相當ノ年數ヲ經強力充分ナラサルノ虞アリ

一、浮 標

港内約十個ノ大型浮標アリ、尙岸壁、棧橋間ニ存在スル砂堆尖端ヲ示ス赤色小型浮標一個アリ

一、荷役設備

陸上設備ナシ、總テ本船側ノ用具ヲ使用セサル可カラス

一、舩

大型舩（容量百噸位）一隻アリ鳳梨ノ出盛期ニ之ヲ滿載シテ發動機船ヲ以テ曳船シテ他島ニ往復スルニ用ユ、其他容量五十噸位ノ舩五隻（ボンツーン）アリ、現在ハ使用セラレサル由

一、水先人

一名、港長ノ事務ヲモ執ル、尙水先人専用ノ發動機船一隻アリ

一、港 費

水先料率ハ「ヒロ」同様ニシテ左ノ如シ

噸數 一、〇〇〇噸以下 一〇弗

一、〇〇〇噸—一、五〇〇噸 一五弗

一、五〇〇噸—二、〇〇〇噸 二〇弗

二、〇〇〇噸—二、五〇〇噸 二五弗

二、五〇〇噸—三、〇〇〇噸 三〇弗

三、〇〇〇噸—四、〇〇〇噸 三〇弗

棧橋料登簿噸數一噸ニ付キ一日二仙

一、清水、食糧品、石炭補給ノ關係

清水ハ良質ニシテ「ホノル」、「ヒロ」ニ優ルト稱セラル、岸壁ニ於テノミ積取ルヲ得、一、〇〇〇「ガロ

ン」ニ付キ一弗五〇仙ナリ

生糧品ハ容易ニ得ヘク、殊ニ野菜ハ豊富ナリ、當地ニ製氷會社アリ但價廉ナラスト云フ、石炭ノ補給ハ

困難ナルカカ如シ

一、氣象一般

雨量少キモ暑氣甚シカラス、是レ常ニ強勢ナル北東恒風ノ連吹セルニヨル、岸壁横付中ハ風上ニ大倉庫アリテ風ヲ遮ルモ棧橋碇繫中ハ強力ナル恒風ノ壓迫ヲ受ケテ船体棧橋ニ密着ス、港内ニ於テノ轉錨、出入港等ハ黎明時ニ行ヲ宜シトナス、此レ二日中ニ於テ風勢最モ風クコト多キヲ以テナリ、港外ハ水深底質等ハ錨泊ニ適スレトモ常ニ大ナル波浪アリ、汽艇ノ横付等ハ比較的好天氣ノ場合ト雖モ困難ナラン

一、産業

本島主産物タル砂糖及鳳梨ノ輸出アリ

一、交通

鐵道ハ「ワイルク」會社アリ砂糖、鳳梨栽培ノ各中心地ト連絡ス、海上ハ「ホノル、」トノ間ニ左ノ便船アリ

「イオンター、アイランド」汽船會社「マウナケヤ」號 一週二回

「マトツン」汽船會社「マノア」號「ウキルヘルミナ」號 二週二回

自動車全島ニテ三千臺ト稱セラレ道路平坦通セサルナキ有様ニ在リ

一、通信

無線電信ハ郡役所々在地ナル「ワイルク」ニ在リ、各島ニ通ス料金ハ日本宛英字一語金七十五仙ナリ

一、初認ノ目標

本港ハ地低平ニシテ附近恰好ノ目標ニ乏シク港外「フェアウエイブイ」ニ至ル迄ノ目標トシテハ左記ニツツ有効ナリトス

(一)「ブウネネ」砂糖會社黒塗大煙突

地峽低地ノ海岸近クニ大煙突ニ基及附屬建物アリ、港ノ東南約五哩程ニ當ル

(二)岸壁上ノ倉庫、白色塗ノ大倉庫ニシテ海上五、六哩ノ距離ヨリ認メ得ヘク恰好ノ目標タリ、遠ク之ヲ望メハ汽船船体ノ如ク見ラル

(注意)當地在留同胞漁業家ノ言ニヨレハ東防波堤突端ヨリ正北一六〇碼ノ間ハ舊防波堤ノ殘骸アリテ水深、淺ク航行上注意ヲ要スト謂フ

當港ハ「ホノル、」「ヒロ」ニ次ク有力ナル港ナレトモ港内手狭ニシテ岸壁及棧橋ニ各一隻ヲ碇繋センカ、他ニ一隻ヲ碇泊セシメント困難ナル狀況ニ在リ、而カモ普通商船ニシテ港外碇泊ハ稍困難ナルヲ以テ、防波堤ヲ擴張スル必要アリ

氣象、地形上ハ西馬哇「ラハイナ」港ニ一籌ヲ輸スルカ如ク他日若シ鐵道「ラハイナ」方面ニ開通スルノ時機來ラハ砂糖、鳳梨等全部ヲ同地ニ吸收シ去ラルヘシト推セラル、試ニ一、九二三年中ノ四主要港出入船舶數ヲ表示セハ左ノ如シ

ホノル、	七一六隻	五、二九二、二七六噸
ヒロ	一一三隻	七一九、九〇一噸
◎カフルイ	六六隻	四一一、九一九噸
アレシ	三二隻	一五六、四六一噸
計	九二七隻	六、五八〇、五五七噸

(丙)「ラハイナ」港概況

西「マウイ」第一ノ都邑ニシテ人口五六百アリ、布哇ニ於ケル白人殖民地ノ魁トシテ開カレシ地ニシテ建物等當地ノモノ尙殘存セルアリ、一帶ニ屈曲少ナキ海岸線ナレトモ島ノ南岸ニアルヲ以テ北東恒風ノ影響ヲ受タルコト砂ク、風波極メテ靜カニシテ自ラ好個ノ泊地ヲ形成ス、海ヲ隔テ、「ラナイ」「カホーラエ」ノ島影鮮カニシテ景色亦絶佳ナリ、住時捕鯨船集散ノ中心地タリシカ最近ニ於テハ米海軍潜水艦ノ練習地トシテ名アリ、過般ノ米海軍大演習ニ際シテハ其龐大ナル艦隊ノ全部ヲ碇泊セシメテ尙餘地アルヲ示セシ程ニシテ將來軍事上重要ノ地タルニ至ルコト疑ヲ入レス、町ノ南端ニ近ク舊棧橋アリ、長ナ四、五十尺ヲ出テス此附近ノ陸岸ヨリ二鎖位ハ淺底ニシテ、ソレヨリ直チニ深度ヲ増セルヲ以テ淺底ノ部ニハ稍大ナル波浪ヲ生シ、時ニ短艇ノ上陸ヲシテ困難ナラシムルコトアリト謂フ

町ノ北端ニ有名ナル「マラー」ノ新棧橋アリ「ホノル、」「ヒロ」連絡ノ定期船「ハレアカラ」號ノ寄港地トシテ知ラル

棧橋ハ全長一千八十呎、全部「コンクリート」造ニシテ鐵道引込線一條、上屋一棟アリ、三、四千噸級

ノ船舶三隻ヲ碇繋セシムルニ足ル設備ヲ有スルモ此附近ハ毎時二、三節強ノ潮流存在スルニアリテ實際  
上ノ繋留ヲ困難ナラシム、荷役設備ナシ

「ラハイナ」北方三哩ニ「カアナバリ」ノ錨地アリ「ブラツクロツク」ト稱スル火山岩ニテ圍ラサレタ  
ル港ニシテ海岸直チニ深底ニ臨ミ簡單ナル小棧橋ヲ以テ船ヲ横付ケスルヲ得セシム「カーゴ、コンヅエヤ  
ー」「クレーン」等ノ荷役設備ノ見ルヘキモノアリ、荷役船七隻、繋留浮標七個アリ、陸上ニハ製糖會  
社倉庫、油槽等ノ設備アリ「ラハイナ、アンド、カアナバリ」鐵道引込線アリテ「ラハイナ」トノ間ノ貨  
物輸送ヲ爲ス

「ラハイナ」「ホノル、」間ノ便船ハ左ノ如シ  
「インター、アイランド」汽船會社經營  
連絡船「ハレアカラ」號「ホノル、」「ヒロ」間一週二回ノ往復ニ寄港  
汽船「ライク、ライク」號一週一回「マラー」「カアナバリ」「オロワル」寄港

(丁) 在留同胞事情

一、九二〇年ノ調査ニヨレハ本島在留同胞ハ戸數五、三三八戸、本業者男女九、五二七人家族一〇、九八四  
人ニシテ合計二〇、五一一人ヲ算ス、内「ワイルク」在住者三六〇戸、一、七三〇人ニシテ同市總戸數六  
〇〇ノ過半ヲ占ムルノ有様ナリ「カフルイ」在住者二四〇戸ニシテ全戸數三四〇ノ八割弱ヲ占ム

一、職 業  
前記都邑ノ在住者ハ旅館、日用品店等ヲ經營セルモ大多數ハ各地方ニ在住シテ砂糖耕地、鳳梨會社等ニ  
就働セリ、本島ニ在リテハ各地方即耕地毎ニ日本在來ノ地方色ヲ濃厚ニ保テル處多シ、例ヘハ熊本縣人  
或ハ福島縣人ヲ以テ一耕地ヲ形成セルカ如シ

今次ニ職業別人口ノ大略ヲ表示ス

職業別	人 數		家 族		合 計
	本 業	者	男	女	
農 作	一一〇	五九	一一二	一九八	四九九
農 場 勞 働	四、八二二	二、二二二	四、〇七八	三、〇二五	一四、一四七
漁 業	一一二	〇	七七	一六五	三六四
銀行、會社	二二二	三五	二二八	二九五	七七九
商店、事務員	一一一	八	七七	七〇	三六二
家事被傭人、料理人	一二七	八八	七七	七〇	三六一
馬車、自動車運轉手	八八	〇	九八	一五五	三四一
雜 貨 商	六六	〇	五二	八二	二〇三
牧畜、養蜂	七九	一四	五一	七四	二一八
鳳梨、珈琲	二一七	四二	二九一	三七二	八二三
僧侶、教師、醫師	五四	二四	六〇	六〇	一九八
計	五、九一六	二、四二五	五、一三四	四、四九六	一七、九三四

一、宗 教

佛、耶兩教各派共熱心傳道布教ニ從事ス  
組合 教 會  
メソヂスト教會  
本 願 寺

淨土 宗||ワイルク、ラハイナ、ブウネネ  
 眞言 宗||ラハイナ、ワイルク  
 曹洞 宗||バイア

一、邦語學校  
 他島同様本願寺其他宗教団体ノ經營ニ係ルモノト然ラサルモノトアリ、授業時間ハ一日一時間公立學校  
 放課後ニ授ク中等學校程度ノモノニ二校アリ

「ラハイナ」同和學園 ラハイナ 田坂開政經營  
 香 蘭 女 熟 ワイルク 神田重英經營

小學校程度ノモノニ二十四校ニシテ系統別等左ノ如シ

色別	校數	教員數	生徒數
獨立校	一六	三六	一、九五八
基督教經營	四	九	四〇〇
本願寺經營	三	七	六六五
淨土宗經營	一	二	六六
計	二四	五四	三、〇九一

一、言論機關

馬哇新聞(社長安井里助) 馬哇「レコード」(社長大塚長雄)ノ二新聞アリ、一週二回「ワイルク」ニテ  
 發行サル、其他日布時事、布哇報知等「ホルル、」ノ新聞支社二、三ヶ所アリ

一、團體

團體名、所在地、會員數左ノ如シ

東馬哇漁業組合 カフルイ 三四人  
 マカワオ購買組合 マカワオ 三二  
 日蓮聖人研究会 ブウネネ 二五  
 ブウネネ佛教青年會 同 三〇  
 美以教會エボース同盟會 ラハイナ 五三  
 ラハイナ青年會 同 一八  
 ラハイナ日本人會 同 二七〇  
 ラハイナ同志會 同 一一五  
 ワイルク日本人會 ワイルク 四一五  
 西部馬哇勞動同盟會 ラハイナ 五〇〇  
 西馬哇生活改善共勵會 ラハイナ 一、〇〇〇

(戊) 馬哇島名所

一、「ハレアカラ」噴火口

「ハレアカラ」ハ土語「火ノ宮」ノ意ニシテ往時噴火盛ンナリシ頃布哇土人ニヨリテ命名サレシモノナ  
 リ、標高一萬尺餘周圍二十哩、長サ七哩半、巾二哩半面積十九平方哩其廣大ナル舊噴火口ハ世界ノ偉觀  
 ト稱セラル火口ノ西邊九、三〇〇呎ノ地點ニ「レストハウス」ト稱スル宿泊所アリ、番人ヲ置カサルモ登  
 山人士ノ宿所自炊ニ便セシム「カフルイ」「ワイルク」地方ヨリハ一泊カケニテ登山スルヲ得ヘシ  
 一、「イアオ」谿

「ワイルク」ノ南西三哩程ノ地點ニアリ、峻峰、奇岩聳立シ麓ニ溪流アリテ涼味掬スヘシ、布哇ノ「ヨセミテ」ト稱セラル、一般ニ本島ハ溪谷ノ美ニ富ミ北方加哇島ヲ「ガーデン、アイランド」ト稱スルニ對シ本島ヲ「ヴァレー、アイランド」即チ溪谷ノ島ト呼ビナセル程ナリ「ラハイナ」附近モ亦溪谷ノ勝景ニ富メリ

一、「クラー、サニタリアム」

「ハレアカラ」山ノ中腹三千呎ノ地點ニアル肺病患者療養所ニシテ郡ノ經營ニ係ル、地高燥ニシテ空氣清ク且ツ太陽ノ直射ヲ受クル事充分ニシテ紫外光線利用ノ便アリ、外ハ一望千里ノ原野ヲ下瞰シ、海ヲ越エテ遙カニ「ラナイ」「カワラベ」ノ島影ヲ望ミ見ルヲ得、院內病室、食堂、食器室、音樂堂、菌養殖場等萬般ノ設備ヲ完了シ何レモ悠々トシテ療養ニ專念セルヲ見得ヘク、內地病院ニ於ケルカ如キ暗黙タル氣分ヲ供フ事ナシ、當所ハ凡テ郡費及寄附金ヲ以テ經營サレ、馬哇郡在住者ハ無料ヲ以テ入院加療セシム、全快率極メテ高ク着々良好ノ成績ヲ收メツ、アリト謂フ、患者ハ同胞過半ヲ占ム

暑中休暇中病室ノ餘裕アルトキハ「カレデ」「ハイスグール」等ノ學生、避暑旁滞在ヲ希望スル者多シト云フ、健康者モ尙且ツ喜ンテ行キ得ル程ニ萬般ノ設備整ヘルハ誠ニ稀有ノ事例ナラスヤ

病院ノ下敷町ノ地ニ「テント、スクール」アリ盛夏ノ候、休暇ヲ利用シテ營養不良兒童ヲ收容シテ其健康ヲ恢復増進セシムルノ用ニ供ス

一、「ラハイナ、ルナ、スクール」

「ラハイナ」町ノ後方山ノ中腹ニ在リ職業學校ニシテ布哇群島中最モ古キ歴史ヲ有シ一、八三四年宣教師ニヨリ建設セラレシモノナリ

自「カフルイ」至品川

九月一日(火) 正午位置

北緯 二〇度四二分  
西經 一五七度〇一分

午前四時五十分水先人指揮ノ下ニ棧橋ヲ離レ品川歸港ノ途ニ就ク、五時二十五分港外ニ出テ水先人退船、同時三十分「フエアー、ウエイ、ブイ」ヲ左舷正横二分ノ一湮ニ航過シ針路ヲ北西微西ニ定ム、七時十分「ナカレレ、ヘッド」燈臺並航、南西微南距離二湮西四分ノ三南ニ轉針シテ馬哇「モロカイ」兩島間ニ介在スル「ハイロロ」水道ニ入ル、時ニ風位東北東風力二ナルヲ以テ各縦帆ヲ展裝シテ舟行ヲ扶ク九時過同水道ヲ出テ針路ヲ南折シツ、馬哇「ラナイ」兩島間ノ「アウアウ」水道ニ入り曾遊ノ地「ラハイナ」ノ市街ヲ指顧ノ間ニ望見シツ、進ム、本水道ハ東ニ馬哇西ニ「ラナイ」ノ兩島アリ南ニ遠ク「カホーラエ」島ヲ望ミ海陸ノ景賞スヘキモノ多シ只馬哇島風上ニ在ルヲ以テ暑氣甚タシキヲ惜ム、然レトモ風波頗ル靜ニシテ群島中好個ノ錨泊地タリ

昨夏米海軍大演習ニ際シ其ノ龐大ナル艦隊ノ碇泊地ニ充當セラレンコトアリ、平常ハ潜水艦ノ練習地點トシテ最適當ノ處ナリト稱セラル、現ニ本船通過ノ際モ數隻碇泊セルヲ實見セリ

十時三十分「ラナイ」島南端「パウベエ、ロツク」正横西距離七湮、西南西ニ轉針シテ「ラナイ」「カホーラエ」兩島間ノ「ケアライ、カヒキ」水道ニ入ル、十一時四十九分「ラナイ」島南西端「ケーブ、アエア」正横(北北西)距離三湮ニシテ同水道ヲ出ツ、風位南東風力二

正午右舷機ヲ停止シ漸次各帆ヲ展裝シツ、右舷機ヲ併用シテ航走ス平均五節  
薄暮ニ及ヒ漸ク風上島ノ影響ヲ脱セシモノ、如ク風位東北東ニ歸リ風力遞加シテ三トナリシヲ以テ左舷機ヲ止メ帆走ニ移ル、駛力最大六節ニ達ス針路西微南

九月二日(水) 正午位置

北緯 二〇度三二分  
西經 一五八度五二分

昨夕來西微南ニ航走中ナリシカ八時正西ニ變針ス風位北東乃至東北東、風力二、駛力平均四節半、出帆翌日ニ付キ臨時休業トナシ分隊編成替ヲ行フ、馬哇島「ワイルク」東福寺委員長及布哇島「ヒロ」邦字新聞社宛「滞在中ノ御芳情ヲ謝ス」旨架電ス

九月三日(木) 正午位置 北緯 二一〇度四七分 西經 一六〇度四七分

風位東微北乃至北東微東、風力終日二、午前正西、午後西南西ニ轉針、平均速力四節半本日ヨリ學習及作業開始

「カフルイ」東福寺委員長ヨリ「安全ナル御航海ヲ祈ル」旨ノ電報ニ接ス

九月四日(金) 正午位置 北緯 二〇度四六分 西經 一六二度五〇分

午前風位東北東風力三ニ増加シ午後ハ風位北東ニ廻リシモ風力變化ナシ、針路終日西南西、駛力最大七節ニ達ス

九月五日(土) 正午位置 北緯 二〇度三七分 西經 一六五度〇一分

風位風力前日ニ同シ

午前八時西微南、正午正西ニ轉針セシカ夜再ヒ西南西ニ復歸ス、昨正午ヨリ本日正午ニ至ル距離百二十三哩ナリ

洗濯及大掃除ヲ施行ス

九月六日(日) 正午位置 北緯 二〇度三三分 西經 一六七度〇〇分

風位北東乃至東北東風力三

針路午前西南西、午後西微南、駛力平均四節半天候連日快晴、暑氣甚シ

九月七日(月) 正午位置 北緯 二〇度三一分 西經 一六八度四三分

風位午前北東、午後正東ニ廻ル、風力二、夜ニ入りテ風位東北東ニ歸ルト共ニ風力三ニ増加ス

針路西微南、駛力平均四節

九月八日(火) 正午位置 北緯 二〇度二六分 西經 一七〇度三〇分

午前中東微北三ノ風ハ午後ニ入り減勢シテ二トナル、正午正南ニ轉針駛力最大五節ナリ

九月九日(水) 正午位置 北緯 二〇度四八分 西經 一七二度二三分

風位東微北乃至東北東、風力終日三針路正西、海流ハ北七十三度東十三哩ナリ、駛力平均四節半

九月十日(木) 正午位置 北緯 二一度〇五分 西經 一七四度一九分

風位、風力昨日ニ同シ、正午過西二分ノ一南ニ次テ五時西微南二分一南ニ變針、風ヲ左舷船尾ヨリ受ケ

テ航走ス、午後風位東微北ニナリシヲ以テ更ニ針路ヲ南折シ南西微西二分ノ一トナス、駛力平均五節

九月十一日(金) 正午位置 北緯 二〇度四六分 西經 一七六度四五分

正午過風位東微南ニ廻リシカ時ト共ニ右轉シ四時南東ニ至リ爾後再ヒ元ニ返リ晝間ハ東微南ニ在リ、夜

ニ入り東微北ニ變ル、風力終日三、針路西南西

九月十二日(土) 正午位置 北緯 二〇度三五分 西經 一七九度二一分

午前中風位東南東、午後南東夜ニ入ルモ變化ナシ風力ハ晝間三ナリシカ夜ニ減ス

午前洗濯及大掃除ヲ行ヒ午後ハ後甲板ニ於テ勇壯ナル軍歌練習ヲナス

午後九時三十七分北緯二〇度三九分ノ地點ニ於テ百八十度子午線ヲ航過シテ東半球ニ入ル、時ニ南東二

ノ風アリ、天候快晴海波靜穩晴雨計示度二九時九三五ナリ、針路正西船速四節往航七月二十四日同經線

ヲ過リテ西半球ニ入りシヨリ日ヲ閱スルト正ニ五十一日ナリ

布哇島出帆以來本日ニ至ル潮流ノ狀況ヲ見ルニ

自九月一日 至九月二日 南六五東 一九〇

同 二日 同 三日 北一八東 一五〇

同三日	同四日	同五日	同六日	同七日	同八日	同九日	同十日	同十一日	同十二日
北七九西	北五五東	北七二東	北六二東	北七六東	北七三東	北六一西	北一三東	北一三東	北四三東
一〇、五	一〇、五	一〇、〇	四、〇	八、五	一四、〇	二、〇	一三、五	一三、五	一三、五

ノ如クニシテ只二回ヲ除キテハ何レモ相當顯著ナル東流ノ存在ヲ示セルモノニシテ、從來二十一度巨等  
 圈上ニ於ケル海流ハ多ク西流ナリシ事例ニ見テ稍豫想外ノ結果ナリト云フヲ得ヘシ

九月十四日(月) 正午位置 北緯 二〇度四七分 東經 一七九度四分

昨夜百八十一度經線ヲ航過セシヲ以テ日附ヲ十四日トナシ臨時休業ス

午前中東南東二ノ風アリ駛力四節ヲ算セシカ午後東ニ變スルト共ニ風力一ニ低下シ午後八時一度無風狀  
 態ニ陥リシモ間モナク東南東一ノ風出ツ、速力一節ニ過キス針路正西

天候快晴、晴雨計示度ノ變化正常ナリ

九月十五日(火) 正午位置 北緯 二一度〇分 東經 一七八度三五分

昨日來漸次減勢ノ傾向アリシ風ハ正午當直中僅カニ風力ヲ持續セシカ六時過ニ至リ遂ニ無風狀態ニ陥リ  
 一波立タス總帆空シク垂レテ西方ノ長濤ニ搖ラル、ノミ、空晴レ天日輝キ暑氣耐ヘ難キヲ以テ午後八學  
 習ヲ休ム

九月十六日(水) 正午位置 北緯 二一度〇六分 東經 一七八度三〇分

依然無風狀態ニ在リシカ午前十時西、一ノ風起リシヲ以テ左舷詰開ヲ以テ進ミシカ風位右轉ノ傾向アル  
 ニヨリ十一時半總員ヲ以テ下手廻ヲ行ヒ右舷詰開トナス、駛力一節ニ過キス、午後六時風位北北西トナ  
 ツ正午近ク東北東ニ變ス、風力ハ依然トシテ一ナリ

昨日正午ヨリノ航走距離僅カニ八哩ニ過キス

九月十七日(木) 正午位置 北緯 二〇度五〇分 東經 一七八度〇八分

正午後再ヒ無風狀態ニ陥リ陰雲空ヲ覆ヒシカ六時強烈ナル驟雨來襲ス、爾後風起リシモ風位ノ變轉定カ  
 ナラス風力亦微弱ナリシカ午後又又無風狀態トナル、今回ノ氣象變化ハ相當ニ大ナル範圍ニ亘レルモノ  
 ニシテ寧ろ汽力ヲ以テ無風帶ヲ突破スルノ利アルヲ思ヒ右舷機ヲ用意セシム

九月十八日(金) 正午位置 北緯 二〇度三三分 東經 一七七度三六分

正午當直中驟雨頻リニ襲來ス、偏北東一ノ風アリ、午前八時五十分前橋以外ノ各帆ヲ收メテ右舷機ヲ以  
 テ汽走開始、午後風位偏南東トナリシモ風力依然トシテ弱シ

水線附近積層雲ノ湧出多ク、空ニハ卷雲層現出シ且ツ西方ノ長濤アリ

九月十九日(土) 正午位置 北緯 二〇度四七分 東經 一七四度四七分

偏南東ノ風ハ午前十時東微南二ノ風トナリシヲ以テ同時汽走ヲ止メ各帆ヲ展裝シテ南西微西ニ定針航行  
 ス、駛力四節半午後風力一ニ下リシカ薄暮風位東ニ至ルト共ニ風力三トナル

午前洗濯及大掃除ヲ行フ

九月二十日(日) 正午位置 北緯 二〇度四七分 東經 一七二度五四分

正午當直中強烈ナル「スコール」ノ來ルアリ、尙午前中モ雲影多ク時々「スコール」ノ來ルアリ、風位  
 概シテ東微北風力ハ二乃至四、午後風位東微北風力三、空稍晴レシモ夜ニ入りテハ雲影多ク驟雨ノ去來



頻ナリ、風位風力午後ニ同シ

九月二十一日(月) 正午位置 北緯 二二度一分  
東經 一七〇度三三分

風位正東風力四ナリシカ正午ニ近ツクニツレテ漸次増勢一時船速八節ニ達セシモ午後風位東微北トナリ  
風勢四ニ下ル、針路正西

航走距離百三十四哩、海流ハ南七十六度東、十六哩半ナリ

九月二十二日(火) 正午位置 北緯 二二度四分  
東經 一六八度一九分

午前中東北東四ノ風ナリシカ午後ニ入り北東三ノ風トナル、午前中針路西二分ノ一北、午後西微北、天  
候快晴

海流ハ北八十八度東二十五哩半ニ達ス

九月二十三日(水) 正午位置 北緯 二二度四分  
東經 一六五度一六分

昨日午後風力稍々衰ヘシモ正午増勢五ニ達シ終日連吹ス風位概ネ北東之ヲ右舷後方ニ受ケテ西微北二分  
ノ一ニ向ケ快走ス、昨日ヨリノ航走距離正ニ百八十哩

秋季皇靈祭ニ付キ休業ス

九月二十四日(木) 正午位置 北緯 二三度四分  
東經 一六二度〇八分

午前中風位風力變化ナク快走ヲ繼續ス、航走距離百八十五哩ニ達ス  
午後風位變リナキモ風力漸次低下シ十時二トナル

本日ヨリ學期試験開始(二期生ヨリ)

午前航海術、午後醫術及機關術

九月二十五日(金) 正午位置 北緯 二四度五九分  
東經 一五九度四四分

風位北東乃至東北東、風力午前三午後ニ入り四ニ増ス、針路北西微西四分ノ三西航距百五十哩ナリ

午前運用術、午後無線電信技術試験ヲ行フ

九月二十六日(土) 正午位置 北緯 二五度四分  
東經 一五七度三〇分

風位晝間東北東三ナリシカ夜ニ入り東南東ニ廻リ風力二ニ低下ス、終日快晴暑氣甚シ  
午前航海術、午後運用術及無線理論ノ試験ヲ行フ

九月二十七日(日) 正午位置 北緯 二六度一分  
東經 一五六度一六分

風位變轉シ北東乃至東南東ノ間ヲ往來シ風勢一乃至二ナリ、針路西北西、駛力平均三節  
九月二十八日(月) 正午位置 北緯 二六度三九分  
東經 一五五度二四分

午前中風位東南東ナリシカ午後南東ニ變シ風力稍加ハリ夜ニ入り三ニ達ス、針路北西微西二分ノ一西  
一期生試験ヲ開始シ午前航海術、午後醫術及機關術ヲ行フ

九月二十九日(火) 正午位置 北緯 二七度〇四分  
東經 一五四度一三分

風位概ネ東南東ニシテ風力一二ノ間ニ在リ、針路昨日ニ同シク駛力平均三節  
午前運用術午後無線電信技術試験ヲ行フ

九月三十日(水) 正午位置 北緯 二七度四分  
東經 一五三度〇六分

東南東一ノ風ハ漸次右轉シ午前八時南々東二十時正南トナリ午後遂ニ南西ニ至リテ止ル  
風力晝間變化ナカリシモ夜ニ入り三ニ増加ス、雲影海水ノ色等ヨリ見既ニ北東恒風帶ヲ出テタルヲ知ル

午前航海術午後運用術及無線電信理論ノ試験ヲ行ヒ之ヲ以テ全部ヲ終了ス

十月一日(木) 正午位置 北緯 二九度〇分  
東經 一五二度三三分

正午南西三ノ風ハ時ト共ニ増勢シ午前五時四、午後五時五、夜ニ入り六トナリシヲ以テ順次各輕帆ヲ收  
ム、晴雨計ハ下降ノ傾アルモ甚シカラス天候晴曇相半ス

午前洗濯及大掃除ヲ行ヒ午後後甲板上ニ於テ勇壯ナル軍歌練習ヲ爲ス

夜學校長宛「十月一日午後六時北緯二九度二四分東經一五一度〇一分南西ノ風順走中一同無事」ナル旨架電ス

十月二日(金) 正午位置 北緯 三〇度五一分 東經 一四九度四四分

晴雨計ハ午前三時二九、七五五時ヲ最底示度トシテ漸次上昇シ始メ風位順轉シテ九時西南西ニ午後四時正西ニ至リ風力亦遞減シテ四時三トナリシヲ以テ先ニ收メタル各帆ヲ展帆シ左舷詰開ヲ以テ進ム、午後九時風位南西ニ返リシヲ以テ北西ニ定針ス 本日正午接受ノ氣象電報左ノ如シ

「一日午前六時颯風位置東經百二十七度北緯三九度中心示度二九、六一時進行方向正東」  
十月三日(土) 正午位置 北緯 三一度一三分 東經 一四八度三一分

風位尙逆轉ノ傾向アリ風力漸加シ午前五時五ニ達ス、西方ノ長濤大ニシテ船体ノ動搖稍甚シ、斯クテ總帆ヲ展裝シテ北西微西ニ航走中正午過大雨沛然トシテ至ルト共ニ激増シテ七ニ達セシヲ以テ總員ヲ上甲板ニ呼集シ各輕帆ヲ收ム、爾後風力稍衰ヘシモ暗雲低迷シ颯風頻リニ襲來セシカ夜ニ入り漸ク晴ル 午前十時接受ノ氣象電報ニヨレハ金華山沖ニ颯風アリ、詳細左ノ如シ

「三日午前六時颯風位置東經一四四度北緯三九度中心示度二九、五三時進行方向東北東」  
十月四日(日) 正午位置 北緯 三三度〇六分 東經 一四八度〇三分

昨夜來西南西六ノ風ニ對シ左舷詰開ヲ以テ航走中ナリシカ午前七時風位順轉西北西ニ至リ風力五トナリシヲ以テ下手廻ヲ行ヒ右舷詰開トナシ進航ス風勢時共ニ下リ九時三トナリ風位亦ニ轉シテ午後四時正北トナリシヲ以テ西微北ニ定針ス

夜學校長宛「十月四日午後六時北緯三三度〇分東經一四七度四二分北ノ風順走中、七日頃橫濱入港豫定一同無事」ノ旨架電シ同時橫濱稅關港務部長宛「七日頃着豫定、棧橋カ岸壁ニ一晝夜緊留願ヒ度シ」ト

打電ス

十月五日(月) 正午位置 北緯 三二度五八分 東經 一四六度二四分

昨夜接受ノ氣象電報ニヨレハ「四日午後六時颯風位置東經一二〇度北緯三三度中心示度二九、八八時進行方向正東」ニシテ上海沖ニ在リテ本邦ニ向ケ進行中ナリ、本船ニ在リテハ風位漸轉シテ午前四時北東ニ同八時東北東ニ正午途ニ正東ニ廻ル風力終日二

天候晴曇相半シ晴雨計ハ下降ノ傾アルモ極メテ輕微ナリ 午後ニ入り風位更ニ東南東ニ至リシカ夜十時南東ニ廻ル、午後九時接受ノ氣象電報ハ颯風東漸シテ對島海峽ニ在ルヲ示ス即チ左ノ如シ

「五日午後六時颯風位置東經一三〇度北緯三四度中心示度二九、九二時進行方向正東」  
十月六日(火) 正午位置 北緯 三三度二四分 東經 一四四度一五分

風位南南東風力三夜明後驟雨頻リニ襲來セシモ正午ニ近クニ連レテ天候恢復ス、午後總員ヲ以テ各橫帆及附屬索具ヲ取外シ、格納シ三時ヨリ兩舷機ヲ以テ汽走ヲ開始ス 本日正午位置ヨリ橫濱迄三百七十浬、午後ハ風位南西ニ廻リ風力二、縱帆ヲ展裝シテ舟行ヲ扶ク毎時平均八節、針路西微北四分ノ三北ニ進ム

夜學校長ヨリ職員移動ニ關スル電報ヲ受ク 「古谷、馬場退職、校長島谷、教務課長須川、生徒課長薄井、幹事教頭ノ制ヲ廢ス、野島劍崎本燈臺竣成ス、野島燈質白光毎二十秒」

直チニ「御就任ヲ祝ス、本日正午位置北緯三三度二四分東經一四四度一五分午後三時ヨリ汽走ニ移ル、八日早朝着」ト返電シ同時ニ矢澤橫濱稅關港務部長及渡邊郵船支店監督宛「八日未明着」ノ旨打電ス  
十月七日(水) 正午位置 北緯 三四度二一分 東經 一四〇度四七分

昨夜來南西三ノ風ナリ午前八時西微南ニ正午更ニ北西ニ廻リ層雲低ク空ヲ覆フニ至リシモ辛フシテ天測ノ機會ヲ見出スヲ得タリ、正午位置ヨリ野島岬ハ北西微西五十二哩ニ當ルヲ以テ北西微西二分ノ一西ニ定針ス、

午後總員ヲ以テ大掃除ヲ施行ス

斯クテ針路ヲ保持シテ航行中三時過ヨリ北西ニ當リテ陸影頻リニ現ハレ來リシカ午後五時十分ニ至リ野島岬燈臺ヲ北三十七度西ニ視認セシニヨリ其儘針路ヲ保持シテ進航ス、六時二十七分野島燈火並航北東微東二分ノ一北距離四哩半、北東ノ風ナルヲ以テ各縦帆ヲ收ム八時洲ノ崎燈火正橫東二分ノ一南距離三哩同十時四十六分觀音崎燈火並航北西微西距離一哩四分ノ一次テ第二、第三海堡間ヲ過リ北二分ノ一西ニ定針シテ進ム

十月八日(木) 横濱入港

午前零時四十二分機關用意ヲ令シ爾後適宜操舵シツ、進ミ同時五十一分「フェアウエイブイ」ヲ南西一「ケープル」ニ見テ航過シ一時十五分港口水道北側ニ至リテ投錨假泊シテ黎明ヲ待ツ

錨 地方 位

港口 赤色燈臺 南七二西

同 白色燈臺 南五七西

フェアウエイブイ 南四一東

水 深 六尋

底 質 泥

錨 右四十五尋

午前七時十五分港務官、檢疫醫來船一切ノ手續完了セルヲ以テ八時五分錨ヲ揚ケテ港内ニ進ミ九時五分

第四號岸壁ニ繫留シ終ル

十時二十分島谷校長、關谷教授來船、總員舷側ニ整列シテ之ヲ迎ヘ校長ヨリ新任及着港歡迎ノ挨拶アリ

正午過退船ナル

生徒、普通海員半舷上陸

午後稅關檢査ヲ完了ス

十月九日(金) 品川歸着

午前中無風曇天ナリシモ正午過南三ノ風トナリ雨ヲ伴フ

午後〇時五十分岸壁ヲ離レテ品川ニ向フ、二時十二分川崎桂燈浮標航過(左舷二分ノ一哩)シ同時三十

一西羽根田燈臺ヲ航過(左舷四分ノ三哩)シテ針路ヲ北微西ニ定メテ錨地ニ向ヒ三時三十分水深四尋ノ

地點ニ右舷錨ヲ投ス

錨 地方 位

大森瓦 斯槽 南六十五度半西

赤塗 浮標 北四十七度半西

臺場 燈臺 北三〇度西

南微西三ノ風アリ、晴雨計示度二九、七九〇吋天候雨

茲ニ無事第三十二次遠洋航海ヲ終了ス

### 復航統計

全航海日數

三十六日十九時〇四分

同航程 三千九百六十二哩

帆走日數 三十二日二十三時五十四分

同航程 三千三百十六哩

一日平均 百哩五六

一時間平均 四哩一八

汽走日數 三日十九時十分

同航程 六百四十六哩

一日平均 百七十哩〇五

一時間平均 七哩〇八

### 全航海統計

總航海日數 七十五日十八時四十二分

總航程 八千九百八十四哩

帆走日數 六十七日二十時五十七分

同航程 七千五百七十五哩

一日平均 百一十一哩六〇

一時間平均 四哩六五

汽走日數 七日二十一時四十五分

同航程 千四百九哩

一日平均 百七十八哩二二

一時間平均 七哩四二

### 自「ヒロ」至品川

月	日	緯度	經度	直航針路	航程	風向	風力	晴雨計	氣温	海温	潮向	潮速
八月	二十七日	「ヒ」	「ロ」	港	一	北	一	晴	七	七	不	明
	二十八日	「カフルイ」	港	不定	二六	北	二	晴	七	七	不	明
	二十九日	「カフルイ」	港	一	一	北	二	晴	七	七	不	明
	三十日	「カフルイ」	港	一	一	北	二	晴	七	七	不	明
	三十一日	「カフルイ」	港	一	一	北	二	晴	七	七	不	明
九月	一日	北二〇三	西二五二	不定	五	南	二	晴	七	七	不	明
	二日	北二〇三	西二五三	南八五四	四	北	二	晴	七	七	不	明
	三日	北二〇三	西二五三	北七三四	三	東	二	晴	七	七	不	明
	四日	北二〇三	西二五三	北七三四	二	東	二	晴	七	七	不	明
	五日	北二〇三	西二五三	南八一四	二六	東	三	晴	七	七	不	明
	六日	北二〇三	西二五三	南八八四	三三	東	三	晴	七	七	不	明
	七日	北二〇三	西二六五	南八九四	三六	東	三	晴	七	七	不	明

八日	北二〇六	西一七〇〇	南八七四	二〇	東	微	北	三	元九〇	六	北七六東	八五
九日	北二〇八	西一七三三	北七八四	二〇	北	東	東	三	元九一	六	北七三東	八〇
十日	北二〇五	西一七二九	北八一四	二〇	東	北	東	三	元八八	六	北六一四	二〇
十一日	北二〇六	西一七六五	南八一四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北一三東	二〇
十二日	北二〇六	西一九二一	南八五四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北四三東	二〇
十三日	北二〇六	東一九〇四	南八三四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北六〇西	二〇
十四日	北二〇六	東一九〇四	南八三四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北三五西	二〇
十五日	北二〇六	東一九〇四	北六四四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北三五西	二〇
十六日	北二〇六	東一九〇四	北三八四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北三五西	二〇
十七日	北二〇六	東一九〇四	南五二四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	不明	二〇
十八日	北二〇六	東一九〇四	南六〇西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	不明	二〇
十九日	北二〇六	東一九〇四	北八五四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	不明	二〇
二十日	北二〇六	東一九〇四	四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	不明	二〇
二十一日	北二〇六	東一九〇四	北七八四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北七六東	二〇
二十二日	北二〇六	東一九〇四	北七八四	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北七六東	二〇
二十三日	北二〇六	東一九〇四	北七〇西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北八八東	二〇
二十四日	北二〇六	東一九〇四	北六九西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北八八東	二〇
二十五日	北二〇六	東一九〇四	北六二西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北五五東	二〇
二十六日	北二〇六	東一九〇四	北六九西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北二七東	二〇
二十七日	北二〇六	東一九〇四	北六六西	二〇	東	南	東	三	元九一	六	北一六東	二〇

二十八日	北二〇六	東一九〇四	北六三西	二〇	東	微	南	一	元九四	六	南	六〇
二十九日	北二〇六	東一九〇四	北六八四	二〇	東	南	西	一	元九六	六	南六九四	六〇
三十日	北二〇六	東一九〇四	北五四四	二〇	東	南	西	一	元九七	六	北一一東	六〇
十月一日	北二〇六	東一九〇四	北四八四	二〇	東	南	西	一	元九八	六	北二六東	六〇
二日	北二〇六	東一九〇四	北四一西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南二二東	六〇
三日	北二〇六	東一九〇四	北三七西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南四〇東	六〇
四日	北二〇六	東一九〇四	北二四西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南四〇東	六〇
五日	北二〇六	東一九〇四	南八四西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南四〇東	六〇
六日	北二〇六	東一九〇四	北七八西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南四〇東	六〇
七日	北二〇六	東一九〇四	北七一西	二〇	東	南	西	一	元九八	六	南四〇東	六〇
八日	北二〇六	東一九〇四	不定	二〇	東	南	西	一	元九八	六	不明	六〇
九日	北二〇六	東一九〇四	不定	二〇	東	南	西	一	元九八	六	不明	六〇

自大正十四年六月二十八日 第三十二次遠洋航海醫事報告

大成丸船醫 飯塚藤吾

本船ハ大正十四年六月下旬品川出帆航海科生徒九十四名ヲ乗セ三ヶ月餘ノ豫定ヲ以テ哇布「ヒロ」「カフ  
ルイ」ヲ經テ十月品川ニ歸着セリ今該期間ニ於ケル衛生狀況ニ就キ其概略ヲ述フレハ左ノ如シ  
一、行動及航海 大正十四年六月廿八日ニ品川出帆横濱入港糧食、飲料水其他ノ航海準備ヲ整ヘ七月一日  
同港出帆五日室蘭着此地ニテ石炭ノ補充ヲ了シ同月十三日同地發愈々日本ヲ離レ順風ニ順風ヲ重ネ豫定ヨ

リ早キコト實ニ一週間八月十七日目的地「ヒロ」入港故菊地學生ノ石碑ヲ立テ碇泊十日間八月二十七日日出帆翌朝「カフルイ」ニ寄港シ九月一日復航ノ途ニ上リ十月九日品川ニ着シ以テ今次ノ航海ヲ終了ス

一、天候及氣温 横濱室蘭間ハ元ヨリ室蘭出帆後モ船体ノ動搖更ニナク至テ靜穩ナル航海ヲ續ケ只往航ニ終日霧雨多ク天日稀ニシテ陰鬱ナル十數日ヲ重ネタルノミ、氣温ハ横濱碇泊中八十度乃至七十度ナリシモ東京灣ヲ出テ北行スルニ從ヒ漸次下降シ室蘭出帆後モ殆ント同緯度ニ於テ六十度前後ヲ示シ南下スルニ從ヒ氣温上昇「ヒロ」着數日前ヨリ夏服トナシ暑熱ヲ感シタリ以後快晴打續キ復航ハ日本近海ニ至ル迄テ八十五度ヲ示シ風無キトキハ一部ノ生徒室ニ在リテハ安眠ヲ妨ケラレタル趣キアレトモ一般ニ室居ニ耐エスト云フニ非ス加フルニ一步室外ニ出レハ微風肌ニ觸レ心地ヨク愉快ナル航海ヲ續クルヲ得タリ

最高氣温	自品川		「ヒロ」カフルイ碇泊		自「カフルイ」至品川	
	至	品川	「ヒロ」	カフルイ	自「カフルイ」	至品川
八五、〇—五八、〇	八五、〇	七六、〇	八八、〇	六六、〇	八八、〇	六六、〇
七六、〇—四六、〇	七六、〇	六七、〇	八〇、〇	六二、〇	八〇、〇	六二、〇
二八、〇—一、〇	二八、〇	四、〇	一一、〇	二、〇	一一、〇	二、〇
五、五—	五、五	九、一	五、二		五、二	
晴天二十八日他ハ雨曇	晴天二十八日他ハ雨曇	晴天八日他ハ雨曇	晴天廿六日他ハ雨曇		晴天廿六日他ハ雨曇	

一、糧食 「ヒロ」港ニ於テ魚獸肉蔬菜果實氷塊等ノ積込補充ヲナシタリ同地ニ於テ鯉ノ中毒ラシキ患者生徒ニ數名見出シタルモ不良腐敗ニ因スルヲ見ス輕微ナル發疹ニシテ經過セルノミ

一、體重 一般ニ「ヒロ」入港時ニ於テ平均一人九十斤ノ増量ヲ示セルモ碇泊中多少減少シ「カフルイ」

出帆時ヨリ品川入港時ニ百六十斤ノ減少アリテ品川出帆時及歸着時ヲ比較スルニ百〇六斤減少セリ恐ラク復航ニ暑熱激シキ地域ヲ通過セル爲ナラン

一、患者ノ狀況 今次航海中受療患者數ハ七十四名ニシテ内十八名ハ普通船員他ハ生徒ニ屬ス而シテ全ク治療ヲ受ケサルモノ生徒三十八名アリタリ之レヲ各學期各月ニ就テ檢スルニ左表ノ如シ

學期別	員數	下船數	現員	六月	七月	八月	九月	十月	計
第八十四期生	六二	〇	六二	*	一八	一〇	七	一	* 三六二
第八十五期生	三四	二	三二	*	一三	二	一	一	* 一七一
計	九六	二	九四	* 三	三一	一二	八	二	* 五三三

備考 第八十四期生中ニ第八十三期生五名ヲ含ム第八十五期生二名室蘭ニ於テ病氣下船各月欄ノ無印數字ハ當月中初メテノ受療患者數ヲ\*印數字ハ出帆當時既ニ加療中ノ患者數ヲ表ス

病名	學期別		計
	第八十四期生	第八十五期生	
脚氣	*	*	二
胸膜炎	*	*	四
計	*	*	一〇

備考 \* 印數字ハ既往症數ヲ表ス  
 疾病中尤モ多數ナルハ呼吸器病消化器病汗疹等ニシテ傳染病脚氣胸膜炎等ノ患者殆ント現出セサルハ嬉シキコトナリ  
 盲腸炎 室蘭入港時第八十五期生平井、小柳兩生徒ハ突然盲腸炎ヲ惹起シ船内入室治療ヲ加ヘ略々小康ヲ得歸郷療養ヲ命シタリ  
 急性多發性關節炎第八十四期生土橋生徒ハ室蘭出帆後二週間ニシテ氣管支炎ヲ起シ入室加療中「ヒロ」着十日前ヨリ本症ヲ發シ陸上ニテ臨時入院治療ヲ受ケシムルコト一週間ニシテ退院乗船セシム

自大正十四年六月廿八日 至大正十四年十月九日 第三十二次航海大成丸患者表

船醫 飯塚藤吾

人員延數	一萬四千五百九十名	一日平均	百四十名二九
受療患者延數	一千三百五名	一日平均	十二名五五
就業延數	七百十五名	一日平均	四名九〇
輕業延數	三百十一名	一日平均	二名一三
休業延數	二百七十九名	一日平均	一名二三

病類	榮養器病		呼吸器病		神經病
	急慢性腸加答兒	急慢性胃加答兒	急慢性鼻加答兒	急慢性氣管加答兒	
急性扁桃腺炎	一	一	一	一	船扁頭
急性胃加答兒	一	一	一	一	痛
急性腸加答兒	一	一	一	一	痛
齒齦炎	一	一	一	一	小計
齒齦突起	一	一	一	一	二
便秘	一	一	一	一	一
痔核	一	一	一	一	一
小計	一	一	一	一	二
普通海員	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一
受療數	一	一	一	一	一
休業數	一	一	一	一	一
輕業數	一	一	一	一	一
治療	一	一	一	一	一
止療	一	一	一	一	一
送院	一	一	一	一	一
死亡	一	一	一	一	一
殘遺	一	一	一	一	一

部別	員數	品川出帆平均時	「ヒロ」入港平均時	「カフルイ」出帆平均時	品川歸港平均時
第八十四期生	六二名	一五、九五六分	一六、〇一五分	一六、〇一七分	一五、八四三分

自大正十四年六月二十八日 至大正十四年十月九日 第三十二次遠洋航海體重表

(甲) 大成丸船醫 飯塚藤吾

合計	小計	眼病		外傷			
		結膜炎	小計	挫傷	切傷	刺傷	熱傷
三							
六二	一	一	二四		一	一	〇二
二四							
三二			七	三			一三
一〇九	一	一	三	三	一	一	二五
一、三〇九	四	四	二八三	一六	三	一三	一四七
二七			三九	一			一四
三二	四	四	一〇二		三	三	四七
九四			一七	一	一	一	〇四
三							
一							
二	一	一	四	二			一

小計	外被病						小計	多發性關節炎	小計	全身病		小計	神經衰弱
	汗疹	水蟲	頑癬	粉刺	疥癬	腫腫				結核	疝門周圍膿瘍		
一													
八		三		一	一	二	一	二	二	一	一	三	一
二		一								二	二	三	二
二		一					一			一	一	二	一
一三	一	五	一	一	一	二	一	二	二	四	三	一	八
三〇八	一	三	七	〇	五	四	六	九	二	一	六	六	二九
八七	一			一	二	一	七	八	六	六	一	一	四
六			三	四	六	六	七		〇	〇			六
二	一	五	一		一	二	一	一	一	四	三	一	六
二													一



第八十五期生	三二	一五、六〇一	一五、七二四	一五、六四九	一五、五七三
普通船員	四八	一四、四〇四	一四、五二七	一四、四六五	一四、二六七
計	一四二	一五、三五一	一五、四四〇	一五、四〇六	一五、二四五

備考 第八十四期中ニ第八十三期生五名ヲ含ム  
第八十五期生二名室蘭ニ於テ病氣下船ス

(乙)

部別	員數	品川出帆時 一人平均時	品川歸着時 一人平均時	増	減
第八十四期生	六二名	一五、九五六	一五、八四三		一一三
第八十五期生	三二	一五、六〇一	一五、五七三		二八
普通船員	四八	一四、四〇四	一四、二六七		一三七
計	一四二	一五、三五一	一五、二四五		一〇六

備考 甲表ニ同シ

大正十四年十一月廿七日印刷  
大正十四年十二月一日發行

發行者 東京高等商船學校

印刷者 板岡賀太次

印刷所 明治印刷合資會社

東京市日本橋區岩代町一番地  
東京市日本橋區岩代町一番地

明 國 號

新 國 號

登 計 年

大正十四年十一月廿一日

終

